

WEB版はこちら
<http://www.manabi-antenna.org>

保存版！



2011年春発行

東京都多摩地域の小・中学校のための
学校に社会の力を活用するための便利帖

～豊かな気づきと発見を生む、未来への学びをプロデュースするために～

まなびアンテナ 創刊に寄せて



公立昭和病院 院長
上西 紀夫

公立昭和病院は、多摩北部の八市で組織する昭和病院組合が運営している公立病院です。この地域に暮らす人たちの救急医療・急性期医療を支えると共に、市民の健康づくりにおいてもリーダーシップを担っています。その役割をしっかりと果たして行くために、これからは地域との繋がりをより強固にしていく必要を感じています。

その一環として、私たちも学校への出前授業に取り組み始めました。病院と地域の繋がりを作るためには、私たちが待っているだけではなく、私たちの方から出て行く必要があるからです。院内に呼びかけた所、忙しさを極める救急部門の医師からも「ぜひ協力したい」との声があがりました。他にも様々な部門の医師や看護師が協力を申し出たのです。

こうして実現した中学校の出前授業を私も参観させていただきましたが、医師や看護師が生き生きしているように見えました。普段と違う場所で、これからの担い手どもたちに語りかけることが、負担になるどころか医療者にとっての学びや癒しになる可能性を感じたのです。実際、参加した職員も

充実感を得たようで、同様の機会があれば積極的に協力したいと思っています。

地域の中核病院として、医療のネットワークの構築に貢献してきた自負はありますが、今後は医療界だけでなく、教育・学校はもちろん、地域社会との繋がりを積極的に作っていく必要があるでしょう。この「まなびアンテナ」のような、今まで繋がらなかった異なる世界をつなぐ取り組みに期待すると共に、私たちができることを真剣に考え、実行していかなければならないと感じます。

このような取り組みを続け、様々な分野の人たちが繋がって地域社会を支える仕組みが育っていくことを期待しております。

まなびアンテナ 目次

巻頭メッセージ 2

【事例紹介】

- ・小平市 4
- ・東京学芸大学 6
- ・八王子市 8
- ・町田市 10
- ・三鷹市 12

支援リソースの紹介 14

行政担当窓口一覧 28

メッセージ・編集後記 30

●本書の使い方●

事例紹介では、多摩地域における学校と地域が連携した取り組みを紹介しています。各学校で支援プログラムを考える際などに、参考にしていただくことを意識して作成されています。

実際に支援する団体を探す場合には、後半の「支援リソースの紹介」ページをお使いください。コーディネーターに必要な情報をコンパクトにまとめています。この情報はカタログのようなものですが、実施する際にはさらに詳しく調べることをお奨めします。

「三方よし」の学校・地域を



日本大学文理学部教授
佐藤 晴雄

多摩地区では、特に学校支援ボランティア活動が全国各地に先進事例として注目されています。ところが多摩以外の地域では、ボランティアが授業支援に関わることに抵抗感を抱く先生が珍しくありません。

しかし、文部科学省の全国学力・学習状況調査結果(平成21年度)を見ると、「PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか」という質問に、「よく参加」と答えた学校は、テストの得点が高い学校のグループが57・6%なのに対して、そうでないグループでは34%にとどまりました。児童生徒の得点が高い学校の方が学校支援ボランティア活動が盛んだと解せず。そのほか、社会教育施設をよく利用すると答えた学校でも同様の傾向が見られました。したがって、地域連携に躊躇する学校や先生は、子どもたちの学力向上にブレーキをかけていると言えないでしょうか。

だとも言われています。高齢者が身近な公民館分館で気功やカラオケなど様々な活動に参加していることが健康維持につながっていると考えられるのです。しかし、長野県ほど公民館分館活動が盛んでない地域では、そのような活動が期待しにくいでしょう。そこで、学校を地域住民の身近な生涯学習の場に位置づけることが求められます。その方法の一つが学校支援ボランティア活動だと思います。学校支援ボランティア活動は、子どもの学習成果を高め、また先生の手助けをするだけでなく、自らの「学び」と「健康づくり」にもつながるのです。中野区の小学校では80歳前後の高齢者グループが定期的に授業を支援していますが、その方たちは頭を使いながら子どもたちから元気をもらっていると言っています。先生や子どもたちも、そうしたボランティアの活動で様々な成果を得ました。

このように、学校支援ボランティア活動は、学校、子ども、そしてボランティア自身にとって意義のある「三方よし」の考え方で進められるとよいでしょう。この考え方を多摩地区にも期待したいと思います。

まなびアンテナとは？

子どもたちの夢と未来に関心を持ち、一緒に汗と知恵と手を貸して行動してくださる方々が、この多摩地域にはたくさんいらっしゃいます。

そして、社会には企業やNPOや各種団体の優れた社会教育貢献プログラムがあり、個人の貴重な生きた体験には、歴史と希望があります。

私は、地域と学校をつなぐ役割の地域コーディネーターとして、学校現場の課題に謙虚に心を傾け、先生方と常に対話をし信頼を積み重ねて関わってまいりました。そして小・中学校の子どもたちのたくさんの笑顔から、学ぶ楽しさを知ることとは、自分自身の世界を広げ豊かに生きていく力になると実感しました。

人と人がつながり、未来につながるコミュニティ発の大人と子どもたちの多様な学びの新しい可能性をいっばいつめて、学校をはじめとする「次世代育成の現場」と「地域と学校をつなぐ核の存在である地域コーディネーター」に届けたいという想いから、この冊子は作成しました。どうぞご活用ください。

制作責任者 布 昭子

地域の力を活用して

子どもたちに豊かな未来を

「地域で育てよう、すこやかな子ども」を合言葉に、平成14年度から「小平地域教育サポーター・ネット事業」に取り組み、学校支援ボランティアの養成・積極的活用と、コーディネーターの養成を図ってきました。現在に至るまで、市立の小・中学校で毎年延べ6万時間以上ボランティアに活動して頂いています。

保護者の声から生まれた、子どもの視野を広げる教育 ～小平第八小学校 国際交流イベント「地球ひろば」～

●「地球ひろば」の企画を生んだ

保護者の思い

小平第八小学校（以下八小）のイベント「地球ひろば」を紹介するにあたり、まずは企画に関わった保護者の方々の思いを伺いました。

「八小は、学区内に外国籍の人も比較的多く、教員や保護者に海外在留経験のある人が多い」という特徴を持ち、国際理解教育を進めやすい土壌がありました。そこで、私たちが国際理解授業のゲストティーチャーになった際、地域の特性を活かして、一方通行になりがちなレクチャー形式ではなく、異文化を身近に感じる取組はできないか、という思いを持ちました。日本における、当り前が他国では当たり前ではないことを実感し、国や文化の違いを知り、認めることで視野を広げることはできないか…。それはきっと将来役に立つだろう。そんな思いが、『地球ひろば』を企画するきっかけになりました。」

●異文化を五感でリアルに感じる

その思いを実現するため、まずは保護者をメインとした約10名の実行委員会が作られました。話し合いを重ね、子どもの心に届く「異文化体験」を、と平成21年に実施されたのが「地球ひろば」です。22年度には2回目も行うことができました。

イベントの内容は、子どもたちが各国に関するクイズが印刷されている「パスポート」を持ち、体育館に設置された各国のブースを見ながら回答していくことで、「世界旅行」をしているような経験ができるというものです。ブースでは、各国のボランティアや八小の五年生が、訪れた人にその国の言葉で挨拶をします。他に、フランス人の保護者が本場のクレープを焼いたり、舞台ではフラメンコなどの公



「地球ひろば」で使われた「パスポート」

●「地球ひろば」の企画と準備

10月下旬に開かれる「地球ひろば」の準備は、年度が変わる前の2月から始まります。イベントのテーマを考え、保護者や地域住民・教員や近隣の学生などを対象に実行委員を募集します。5月から6月には担当教員と相談し、企画の大枠を決定し、夏休みに入る前からは、各国のブースの企画をどう実現するか、委員が何度もミーティングを繰り返します。ブースを担当する委員は、子ども達に「本物」を感じてもらうため、大使館や政府観光局に足を運び、各国の正確な資料を集めることもあります。イベント直前には、準備や調理、ブースアテンドのボランティアも募集しています。



ブースには展示と民族衣装を着た児童

また、他国だけでなく「世界の中の日本」を理解する事も重要なテーマで、「ゴミ問題で世界遺産になれない富士山の紹介なども行われました。2回目は、約400名が来場し、八小の5年生を含む約170名のボランティアスタッフによって運営されました。イベント後の反響も良く、子どもたちには「ランドセルがあるのは、日本だけだと知り、もっと世界のことを知りたい」との声がありました。「地球ひろばが、子どもたちにとってこれからの未来について何かを考えるときっかけになっていくことを期待しています。」実行委員の方々は、そう願っています。

保護者と教員が協力的な環境にあるのは、青少年健全育成活動がとても活発で、10年ほど前に学校の枠を超えた教育活動を当時の校長が「やってみよう！」と声を上げたのが始まりです。その熱意が引き継がれ、今も多くの人を動かしています。

地域・学校・コーディネーターが“チーム”だからできるキャリア教育

～小平第二中学校 職場体験授業～

●「生きる力」を育むには、

1日の職場体験では足りない

キャリア教育の一環として「職場体験」を実施している学校は増えていますが、体験を確かな学びにつなげる方策や、体験先の継続的な確保には多くの学校が苦勞しています。小平第二中学校では、7年前からコーディネーター・保護者・地域が連携して続けてきた職場体験を、より有効な学びの場とするため、事前学習の実施や5日間に渡る体験先の確保などに取り組んできました。

1日だけの体験先だけでも確保が大変な中、5日間の体験を実施しているのは、いま求められる「生きる力」を育むには1日だけの体験では足りないとの考えからです。平成16年に、当時の担当教員がコーディネーターに

「継続的な体験を実施したい」という相談があり、そこから学校支援コーディネーター部会と教職員が、企業・施設・保護者の間に立って調整を行い、充実した体験を実施する営みが始まりました。もちろん、連続して5日間の受け入れができる職場は少ないため、多くの体験先を確保し、複数の職場を合わせて5日間の体験となるよう調整が行われています。

5日間の体験期間を確保することに

よって、緊張する1日目、仕事を覚える2日目を経て、3日目は仕事に慣れ、4日目は創意工夫ができ、5日目は感動が生まれる…というように、より深い気づきや学びが得られるようになりました。

●体験当日をより有意義なものにする、事前学習のマナー講座

事前学習では、生徒全員がハローワークの職業レディネステストとマナー講座を受けます。特に、マナー講座はお辞儀や名刺交換などの「形」の練習のみで終わらないよう、「なぜマナーが必要なのか」を理解できるように、社員研修を行っている地元の企業に講座を依頼しました。

次に、体験先のグループ（保育、福祉・動物、販売など）ごとに、その分野の職業人や関係者から仕事の概要や心構えを学びます。また、当日に生徒をサポートする保護者ボランティアも



上：校内での事前学習



下：体験先でのひとコマ

事前準備として、体験先ごとの専用のノートに各企業・施設担当者名や体験内容などを記録に残して、教職員と情報共有をしています。

職場体験後、生徒達は以下のような成長を見せてくれました。

「最初は挨拶をする気になれなかったけど、頑張つて挨拶するとお迎えにきたお母さん達が笑顔になってくれたので、挨拶は人を明るくできると知った」「仕事を、自分には無理だと勝手に決め付けないことが大事だと思いました」（後述の、冊子「キラキラ」と）より生徒の感想を抜粋）

事前のマナー講座の意味を、実際に働くことで真に理解したという生徒の声は多く、見えないところでの努力も仕事であること知り、生徒達の視野が広がっています。

●「繰り返し」と「文章化」

：体験を人生の糧にする事後学習

事後学習では、各生徒が体験をA4のシートにまとめます。全体発表会もあり、少し時間をおいてから振り返りをする事で新たな気づきを得る工夫をしています。事前・当日・事後の繰り返し学習と、考えを文章化する作業を通じて、体験を文字通り、身に付けることができるのです。

また、毎年「キラキラ」という冊子も制作しています。体験した生徒の感想、受け入れ先からの反応、同行した保護者ボランティアの意見が入り、受け入れ先の企業・施設へのお礼の意味をこめて配布しています。この冊子を出すことが、体験先の継続的な確保や新規開拓に役立っている側面もあります。

【小平市の情報】

★小平市の教育支援団体紹介★

●武蔵野手打ちうどん保存普及会
「小平糧うどん」という郷土料理を伝承している市民グループです。今まで小平三小や十一小など小平市内数校に出向き、子どもたちとうどんの打ち方、茹で方等の指導をしてきました。

▽江連（広報担当）

042(343)5153

●小平手をつなぐ親の会

「みんながって、みんないい」
理解されにくい知的障害について、どのような障害特性があるのか多くの人に知ってもらうために、小中学校、大学、公民館市民講座などで啓発活動に取り組んでいます。

▽山本 04(2333)5807

年齢や立場を超えて地域と大学がつながり 「こどもモード活動」の実践

大学発！ 子どもが育つ環境づくり

●大学内の研究施設

「こどもモードハウス」

東京学芸大学では、「こどもの遊びと子育て」に関する研究開発を目的として、2005年10月に、『東京学芸大こども未来プロジェクト』を、(株)おもちゃ王国と産学協同研究組織として設立しました。

こどものように夢中になっているとき、その状態を「こどもモード」と名付け、その理念を基に、こどもに関わる「ひと」「こと」「コミュニケーション」を3つの柱として、研究開発を行っています。

このこどもモード活動の一つとして、

こどひろば

【対象】0～3歳未満
【内容】フリースタイル
【開催】毎週水曜10:00～13:00
※遊びのプログラムのひろばは月曜日開催(不定期)
【保護者の声】
「子どもがいても気兼ねなくママ達同士でおしゃべりできるランチタイムがうれしいです。」

こどクラブ

【対象】3～8歳未満
【内容】創造活動、自然活動
【開催】第2・4水曜日
15:00～16:30
【保護者の声】
「大学生のお兄さん、お姉さんたちと活動するの『大好きです。』」



大学生と子どもたちが一緒に遊びます

地域の子どもたちや親子たちと集える研究施設「こどもモードハウス」を学芸大敷地内に2006年にオープンしました。そして、2010年6月にリニューアルし、新しく開放感あふれる空間になったハウスでは、現在、学生、研究員、地域のおとなたちが、子どもたちと一緒に多彩な活動を行うスペースとして活用されています。

●学生たちも参加する遊びのプロジェクト

具体的には、3歳未満の乳幼児の親子を対象とした「こどひろば」を毎週一回、3歳～8歳未満を対象とした

「こどクラブ」を隔週で一回、定期的に開催しています。(参加するには事前に登録が必要です。)

「こどひろば」は、学生たちのプロジェクト学習の実習の場としても活用され、また「こどクラブ」でも、学生たちが企画した遊びを実施したり、学生たちが地域の親子とふれあうことができる貴重な場にもなっています。

また、開発された遊びのコンテンツは、地域の公民館や小学校等でも出前で行われています。

東京学芸大こども未来プロジェクトで実施している、乳幼児、児童、学生、保護者、シニア世代等、年齢や立場が異なる様々な人たちがつながりを持って、地域の子どもの未来を支えていく取組みを紹介いたします。

●三市・学芸大連携講座受講者の、世代間交流活動を紹介！

「ペーパークラフト同好会世話人

小峰 義夫(ごみね よしお)さん 79歳

国分寺市に住む小峰さんは、三市連携講座を毎年受講されていますが、「ペーパークラフト同好会」世話人として、国分寺市の本多公民館を拠点に子どもたちへ模型飛行機の作り方や飛ばし方を教えていらっやいます。

活動を始めたきっかけは、2002年にゆとり教育が始まり、小学校が週休5日制に変わった当時、子どもたちと、年配の世代の人たちとの交流が少なくなっていると感じていたこともあって、世代間でもっと交流できる居場所を作りたいという想いで始められました。

「模型飛行機を通して、様々な人のつながりを感じて欲しいと思います。がらも、実は、子どもたちと一緒に活動することで子どもたちから学ぶ

東京学芸大学と三市(小金井市・国分寺市・小平市)連携による ボランティアの資質向上のための講座

●学芸大と三市が連携して講座をスタート

東京学芸大こども未来プロジェクトでは、国の放課後子どもプラン、学校支援地域本部事業の施策を受け、地域で子どもに関わる人々を、今求められている人材として育成するために、研究開発を進めてきました。

そして、近隣の小平市、小金井市、国分寺市でも、地域のボランティアの新規開拓や、質の確保、また現場とのマッチングなどの課題を抱えているこ

受講者の感想

○地域での自分の子どもたちへの関わり方の立ち位置が分かりました。
○新聞紙を使った遊びは子ども心に戻って楽しめました。
○発達障害の子どもたちの気持ちがわかりました。すぐに活用します。

実施講座の紹介(一例)

- 子どもにとって魅力的な大人とは？
東京学芸大学教授 松田 恵示
- 子どもの遊びへの関わり方
東京学芸大学准教授 鉄矢 悦朗
- 子どもの体験活動の心理
東京学芸大学准教授 杉森 伸吉
- 発達障害の子どもが求める理解と支援
東京学芸大学教授 高橋 智

とがわかり、2007年から近隣三市と連携して、地域で子どもに関わる活動をしている人やこれから関わりたいと思っている人々を対象に講座を実施しています。

これまで、各市にヒアリングをしてさまざまな講座を設計し、年間30講義を実施していますが、毎年述べ約800名の受講者が参加しており、みなさんとても熱心に講義を受けていただいています。

●NPO法人東京学芸大こども未来研究所を設立

2009年には、大学の研究成果等の「知」を外部へ還元する機関として、『NPO法人東京学芸大こども未来研究所』を設立し、この年から三市連携講座の運営は、NPO法人が行っています。今後も継続して講座を実施し、地域の人材育成に貢献していきたいと考えています。

この人材育成事業は、平成20年度から文科省の補助金事業として、「教育支援人材認証事業」に発展して研究開発を行っています。

そして、今年度から、学校教育活動や学校教育外活動を支える人のための認証制度をスタートし、三市連携講座の受講者からも認証取得者が多数出て



平成22年度パンフレット

います。
今後は、これまでの受講者のみなさんが、つながりを持って地域を支える力となって活躍してくださることへの期待と共に、また、本プロジェクトも地域で活動されているみなさんを中間支援組織としてサポートして行きたいと思えます。

問合せ：東京学芸大こども未来プロジェクト

TEL:042-329-7795

Mail:codomo@u-gakugei.ac.jp

http://www.u-gakugei.ac.jp/~codomo/



ペーパークラフト同好会 活動風景

こともたくさんある」と、語る小峰さんは、子どもたちの目線に立って向き合うことを忘れない笑顔の優しい素敵なシニア世代。
昨年の秋には、国分寺第一小学校の放課後学校プランで、「つくる喜び、飛ばして楽しむ、紙飛行機教室」を開催し、60名の子どもと34名の大人たちが参加する一大イベントとなりました。「これからは、地域の子どもたち、そして青年期、大人たちも含めて、どうすれば地域を豊かにできるかを課題として学んでいきたいです」と益々意欲が旺盛なのです。

保護者を学校に呼び込もう！

〜八王子市立松木中学校〜

●活動のあらまし

八王子市立松木中学校には、生徒をサポートする、保護者や地域住民によるサポーターシステムがあります。それをまとめているのが、学校コーディネーターとPTA役員です。

サポーターの役割は多岐にわたり、各サポーターは専門の役割を持って子供たちをサポートするようになっていきます（表参照）。このシステムが活発に動くことにより保護者と学校が繋がり、今では学校そのものが円滑に動くための重要な活動の一つとなっています。

●なぜ、この制度が必要だったのか？

約5年前から、学校サポーター制度が始まったそうです。この制度を始めたきっかけについて、松木中学校滝澤校長先生が話してくださいました。

中学校の悩みは、中学生になったとたん親が急に学校との関わりを持たなくなってしまう事です。学校に自分の親は来てもらいたくない、と話す生徒がいたり、仕事を始め時間を作りにくくなる親がいることも理由にあるようです。しかし中学生こそ親に温かくしっかりと見守っていて欲しいとの思いから、大人がサポートするシステムを、当時PTA会長であり、後に学校コーディネーターになられた金山さんと横山さんが一緒に立ち上げました。

保護者が学校に来る理由は自分の子供の為だけではなく、中学生を見守る一人の大人としての役割なのです。

●立ち上げと継続

この制度の立ち上げは、やる気のあるコーディネーターとPTA役員がいれば形にすることは難しく無いと、実際に立ち上げられた金山さんから、頼もしいお言葉を伺いました。しかし、長く継続するためには、引継ぎの人材の確保と、システムの見直しを常にする必要があります。

特に活動の継続を考えると、数年間継続的に活動可能な学校コーディネーターが重要となります。さらにPTAでもOG・OB枠をもうけ、幅広い人材がサポートシステムに関われるように工夫を行っています。

システム改善としては、毎年、参加者からのアンケートや役員との話し合いにより、サポートの種類の見直し及び追加・人数配分の変更を行い調整しています。

- 学校サポーター一覧（22年度）**
- *漢字・数学・英語検定
 - *保健室
 - *学校大掃除
 - *昼休み（図書室・給食配膳）
 - *夜間パトロール
 - *ガーデニング
 - *餅つき大会
 - *ミニコミ誌
 - *イベントスタッフ
 - *部活支援
 - *HP管理人
 - *青少対地域美化活動
 - *講演会聴講
 - *アカデミー準備



左からコーディネーターの金山さん、滝澤校長先生、PTA会長の竹原さん

●吹奏楽部に代わって

八王子市青少年吹奏楽団の支援

NPO法人ライブリーの活動として吹奏楽部にかわって活動する八王子市青少年吹奏楽団の練習を見学させていただきました。私にとっては初めての部活見学で、想像していたよりずっと厳しいものでした。放課後の音楽室からは、毎日必ず楽器を演奏する音が聞こえ、土日は市内の他の中高生も参加し、お弁当持ちでの練習だそうです。

見学した日の午後もランベットの練習をしすぎて、唇が赤くなっているも、友達と音を合わせられるまで弱音をはかずに練習し続けている子を見ました。この吹奏楽団を指導して下さるのがライブリー理事長の溝口拓さん。やさしく、厳しく、ユーモアをもちながら、子供たちに対して真剣に体当たりで教えているのがとても印象的でした。子供たちの素晴らしい演奏にも感動しました。またライブリーは他にジャグリングサークルや、学習サポーター教室なども行っています。



NPO法人Lively事務局

〒192-0362
八王子市元松木34-14 グランデビル4F
TEL:042-673-2245
have_a_lively_mind@yahoo.co.jp
http://www.npo-lively.org/



保護者が参加しやすい工夫が大切

やることをわかりやすくすることで、参加のハードルを下げる

●保護者が参加しやすくなる工夫

ボランティアに参加することは、大人でも躊躇すること。参加しやすくなるためには、「これだけやってくれればOK」とわかりやすい企画にするのが重要で、現PTA会長の竹原則吉さんがお話してくださいました。

保護者を取り込むポイントは以下にあるようです。

①参加は自主的にする。

この活動は、あくまでも自主性にこだわり、強制にはしていないのがポイントです。それでも保護者の参加率が高いのは、生徒や保護者の成功体験から、この学校の特色として根付いてきたためでしょう。

②募集時の内容説明が具体的にあり、終わったときに保護者も「楽しかった」と思える工夫。

例えば「保健室サポーター」についての内容説明には「生徒の検診時に検診マニュアルに従って子供たちに受け方や注意を与え、スムーズに検診が流れるようにします。」とあり、マニュアルに添ってサポートができる安心感があります。

また、細かい事なのですが防犯パトロールの場合、八王子市から全校に

配布されている「安全パトロール」のジャンパーに学校名をプリントし、学校オリジナルのジャンパーに変えてしまうなど、ちょっとしたアイデアでもっと楽しい気分に参加できるので

す。夜間パトロールは中学校なら午後の午後8時スタートもあり、そのなかで、学年を超えて保護者どうしが語り、絆が生まれるのです。活動終了後、先生方や保護者どうしで話し合う機会も作るようにしています。

●検定サポーターの成果

検定サポーター（漢検・数検・英検）がいることにより、次のような利点があるそうです。

まず、試験監督が増えると受験可能となる級が増えます。先生だけでは試験監督の人数に限界があります。保護者の参加によって、英検の場合は5級から準2級までの会場設営が可能となりました。

次に検定サポーターの仕事内容は受験料の回収や受付事務・当日の試験監督だけではなく、勉強会のサポーターもいます。試験前の放課後勉強会では、過去の試験問題や英語による模擬面接までの手厚いサポートが行われます。この活動により、生徒の合格率、級の保持率が格段に上がりました。

【取材者のコメント】

廊下ですれ違つと「こんにちは！」と元気な声で挨拶してくれる中学生。「地域の大人が学校にいる」のが当たり前になっているから、見知らぬ私にも挨拶できるのでしょう。生徒たちは、多くの大人たちに見守られている安心感を持っているように見えました。このシステムにより、生徒・保護者・先生のつながりがより強くなっているようでした。

今回の取材で、コーディネーターとして、人と人をつなぐヒントを学ぶことができました。ありがとうございました。



地域美化活動サポーター



▲ イベントスタッフによる、手作りのタッキーコンサート

●エコひろば

（八王子市環境学習室）

「エコひろば」では環境教育支援を行っています。主に小学校の総合学習や各教科で行われる環境学習に、環境市民会議や環境保全活動をしている団体を紹介し、授業サポートや出前授業等を行っています。

環境に関する図書や環境学習に必要な物品の貸出もしています。

また、環境学習リーダー養成講座や市民講座を企画、実施。環境市民会議や環境団体と連携をとりながら地域の人材育成にも取り組んでいます。

（活動例）

- *親子エコロジックッキング
 - *川の学習*里山学習*ゴミ分別
 - *省エネルギー教室
- など多岐に渡っています。



環境学習・リサイクル推進協議会 エコひろば（八王子市環境学習室）

八王子市北野町596-3 あったかホール2階
TEL:042-656-3054 FAX:042-631-9422
<http://www.ecohiroba.jp/>

小学校における授業支援／成長する学生ボランティア

MGN（町田市学校支援ネットワーク）モデル校である本町田小学校、大戸小学校にご協力をいただき、社会教育的視点から、「情報交換から授業支援がひろがる」「ボランティア活動を通して、学生と子どもたちの成長」というテーマで事例紹介をいたします。

地域と学校の情報交換から授業支援がひろがる 本町田小学校 ～コミュニティ委員会～

●校内委員会を支える活動として

10月の土曜日・2時間目、生活・総合の授業に地域の方々がゲストティーチャーや授業補助として教室に入り、授業を通してふれあいました。

- ・1年 かしの木山公園工作部
- ・2年 昔遊び
- ・3年 手話
- ・4年 七輪もち焼き
- ・5年 ケアセンター湧和との交流
- ・6年 職業理解（様々な職業を知る）

と、幅広い体験活動が展開されました。3・4時間目はコミュニティ委員会が核となった「本町田小まつり」で、多くの協力者が出展されたブースをまわり、児童はお客さんとして祭りを楽しみながら、出展のお手伝いをするなどで、仕事について学ぶ機会を得ることが出来ました。

●地域と学校の情報交換の場として

2006年に発足したコミュニティ委員会は、校内コミュニティ（教職員）と校外コミュニティ（保護教、地



本町田小コミュニティ委員会の様子

域住民、民生児童委員、NPO等協力団体関係者、コーディネーター等の2部構成となっています。校内コミュニティで話し合われたことが校外コミュニティに提案され、リソース（または人材）の紹介を依頼するケースや、学校での児童の学習の様子や、地域での子どもの様子の報告がされることで、子どもの様子をより深く知る機会になります。その結果、地域の方々が学校での様々な活動に協力しやすい体制が築かれていきます。

●情報交換から実現した

「ゲストティーチャー」による授業

10月の本小まつりに向けた話し合いの中で、校内コミュニティを通して、6年生の職業理解で多様な職業に従事している方を講師として招きたいという依頼がありました。講師の選定についてコミュニティ委員会で情報交換をする中で「元テレビアナウンサーが地域に住んでいる」という情報もたらされました。「話をしてもらった時間が5分ではもったいないので、別の機会を考えましょう」ということになり、日を改めて、5年国語「目的に応じた伝え方を考えよう」で、その方を講師として招き、実際の現場での様子など貴重なお話を聞くことができました。

先生方のご尽力によって始まり、繋がってきた児童にとつての豊かな授業活動は、コミュニティ委員会の活動により、地域と学校のなかで、ひろがりつながりをみせています。

★町田市学校支援センター★

●学校支援ボランティアの総合窓口

町田市では、各小・中学校の教育活動をさらに充実させることを目指して、市内小・中学校のほとんどで学校支援ボランティアコーディネーターによる学校支援の取組をすすめています。特色は、学校支援地域本部を教育委員会内に置き、各学校に校長推薦によるコーディネーターを配置し、学校と地域をつなぐ活動を行っていることです。これらの活動を円滑に進めるために、学校支援センターを設置しています。

●コーディネーター同士で情報交換

今年度、小学校は市内校長会ブロック（6地区）にわかれ、中学校は全体でコーディネーターミーティングを行いました。

ミーティングでは、各学校の事例が紹介され、それを参考にコーディネーター活動に広がりをもたせたり、

ボランティア活動を通して、学生も子どもたちも成長してゆく

大戸小学校 ～学生ボランティア～

●大学・地域との連携

大戸小学校では、地域貢献と人材育成という視点に沿った学生ボランティアを受け入れています。具体的には、近隣の大学生が参加しやすい時間帯

(放課後)を使って、学生自らが作成した「遊び」のプログラムを実施し、コーディネーターがサポートを行っています。

また学生だけではなく、大学教授や地域住民、NPO団体等にご協力いただき、学習(宿題・補習)、表現活動、スポーツ活動など、充実した体験活動を継続的に推進しています。

なかでも、隣接する法政大学多摩キャンパス・ボランティアセンターとは緊密な関係にあります。同センターが窓口となって、多摩キャンパスの学生に同校のボランティア活動を紹介する場合もあります。一方で、ゼミ単位の参加というケースもあれば、その輪に地元出身の大学生が参加するケースもあり、関わり方は様々です。

●ある教授の申し出がきっかけで

「地域で学生を育てたい」という想いをもつ法政大学の教授から、大戸小でのゼミ生によるボランティア活動の申し出があり、連携の第一歩が踏み出されました。現在、社会学部や現代福

祉学部など複数の教授と連携した、学生による総合の授業や、ゼミ学生による放課後活動「ホウカツ」が行われ、教育課程の内外で新たな教育活動を推進しています。

●学生のやる気、意気込みを大切に

同校では、学生のやる気、意気込みを大切に、学生主導の流れをつくるようにしています。そのため、「活動実施後に達成感を味わえるよう、ヒントを与えずに」、「反省材料が、次のステップにつながるサポートをする」といった点に重きを置いています。

また、地域の方々に「安全面への配慮は大人の責任」ということを理解していただき、学生のサポートを行っていただいています。

このように、人材育成という視点に沿った活動の場が用意されていることで、活動終了後に「ボランティアで大戸小に関わりたい」と自ら友人を誘って、通ってくれる学生も増えていきます。

●異年齢交流で成長する、学生と子どもたち

コーディネーターから、ボランティア活動に関わっている学生と子ども

たちの様子を、伺いました。

「『小学校時代を懐かしみたい』『子どもたちと一緒に遊びたい』と様々な想いを持って参加する学生も、活動を重ねる中で、子どもとの接し方・向き合い方が変化していきます。

子どもたちも、学生の活動ぶりに憧れをもち、近い将来の自分を思い描くきっかけになっているようです。異年齢の人々が学校を拠点とし交流をもつ仕組みの大切さを改めて理解するとともに、子どもたちや学生の成長していく姿からも実感しています。」

先生方、コーディネーター、地域の方々に支えられ、学生と子どもたちはこれからも成長してゆくことでしょう。



学生が「遊び」のカリキュラムを作成

「先生方とのコミュニケーションの回り方」をはじめとした、活動上の悩み等を共有したりしながら、参加者それぞれにプラスになるよう心がけています。

今後も、情報交換する機会を設け、地域団体や人材に関する情報を各学校のコーディネーターと学校支援センターで共有することで、各学校の取組みを充実させたいと思います。

また、生涯学習の成果も活かして協力団体や地域教育力の向上を図り、ボランティアとして活躍の場が広がればと考えています。

●活動の効率化と

情報共有をめざしたMGN

2009年度から、コーディネーターの活動報告の効率化、「学校支援ボランティア人材データベース」の共有化と協働化、コーディネーター同士の情報交換のツールとして、「町田市学校支援ネットワーク(MGN)」の構築をすすめ、現在、市内モデル校(12校)にてネットワーク化を図る取組をしています。

※詳細は「町田市学校支援センター」まで
<http://www.city-machida-gakkoshien.org>

三鷹の市民力・地域力を学校に活かす

三鷹市では、平成一八年度より「コミュニティ・スクール」を基盤とした七つの小・中一貫教育校が「学園」として開園しています。各学校の学校運営協議会が「コミュニティ・スクール委員会」を組織し、学園の運営に参画し、学校・学園と歩みを共にしながら子どもたちの豊かな育ちを後押ししています。

保護者や地域が自分の力で授業をサポート ～学習ボランティアの実践とコーディネーターの存在意義～

●需要も供給も高まるボランティア

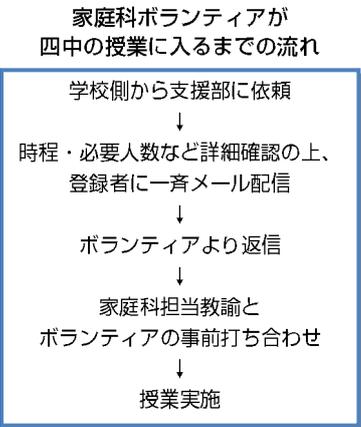
三鷹市に限らず、日々の授業に入り先生の補助をする、学校教育サポートのボランティア活動が盛んです。地域にはシニア世代を中心に、子どもたちの学びや育ちに関わりたいと思ってる人はたくさんいらっしゃいますが、学校への関わり方がわからずいます。一方、学校も多くの方に関わってほしいと願っています。どのように入材（人材）を見つけ、アプローチしていいのかわからずにいることが多いようです。その需要（学校）と供給（地域ボランティア）をつなげているのが、教員ではない立場のコーディネーターの存在です。

●ボランティア事務局の運営方法

三鷹中央学園（三鷹市立第三小学校、同第七小学校、同第四中学校）では、それまで各小学校にあった学習ボランティアの仕組みを平成21年度4月の開園をきっかけに、学園単位の「学園学習ボランティア」と位置付

け、コミュニティ・スクール委員会の支援部が運営の中心的な役割を担っています。学校と相談しながら、ボランティアの目的を明確にし、関わり方をマニュアル化したうえで、賛同できる方に登録してもらう、先生方と打ち合わせをして、よりわかりやすくボランティアに伝える、などの工夫をして、先生方も「頼んでよかった」と思え、ボランティアも「手伝ってよかった」と双方が思えるように橋渡ししています。ボランティア登録者は各学校の保護者・地域が中心となり、全体で118名、家庭科に登録しているボランティアは42名います。

8名、家庭科に登録しているボラン



●今年度、中学校に初ボランティア

開園して一年、これまで小学校が活動の中心でしたが「中学校にも是非ボランティアに入って欲しい。」という中学校からの依頼があり、この度、初めて中学校の家庭科のミシン実習に学習ボランティアが入りました。ミシンの扱いには個人で差があり、家庭科の先生一人では、なかなか指導の手がまわらないのは、中学校も小学校同様です。今回は、どのクラスにも各班に一名ずつボランティアがつくことができました。

●ボランティアの存在が生み出す可能性

何より嬉しかったのは、生徒たちの反応です。先生一人ではなかなか聞けなかったこれまでの授業とは違い、質問に対してすぐにボランティアが答えてくれたりお手本を見せてくれたり、「わかる」、「できる」ことの喜びを感じているかのように、楽しそうに針を動かす、何より大人との会話を楽し

んでいました。生徒たちから「また来て教えてください」という声までであり、小学校だけでなく、中学校にも学習ボランティアが入ることの必要性を強く感じた瞬間でした。

学校の先生方の「やりたい授業」「してほしい支援」の声に応える、地域の熱意と得意分野を学校につなげる、ルールやマニュアル化でボランティアの役割を明確にする、など学校支援ボランティアコーディネーターがいることで「コミュニティ・スクール」の運営が推進され、子どもたちへのより豊かな学びを支えることができるのです。



学校の屋上で天体観測：三鷹四小「アストロクラブ」

～「星空を楽しむ専門家」とコーディネーターの出会いから生まれた取組～

●本物の星空をみる

「アストロクラブ」

学校の屋上から、天体望遠鏡をのぞいて夜空を見上げる。まるで図鑑の写真を見るようなヒカヒカのお月さまや、くっきりとした土星の輪が見えると、子どもたちだけでなく付き添いの大人からも驚きの声が聞こえる。三鷹市立第四小学校で行われている「アストロクラブ」では、月に一回、観望会を中心にした活動が行われています。

子どもたちにもっと天文への興味を持ってほしいと活動の場を求めていた「天文学とプラネタリウム（以下天プラ）」という若い研究者グループと、子どもたちにいろいろな活動を提供したいと考えていた居場所作りのコーディネーター（NPO法人夢育支援ネットワークスタッフ）が出会ったのは五年前。以来、このアストロクラブの活動は四年の実績を重ね、この春からはクラブの卒業生たちが「中学生サ

ポーター」として、教室や望遠鏡の準備、片づけなどのお手伝いをしながら、活動に引き続き参加するようになりました。

夜の学校に大勢のスタッフと子どもたち、それに付き添いの保護者が出入りする活動が始められたことに学校側の英断があったことは間違いありません。そして、単発のイベントではなく、定期的に行われるクラブ活動として継続できていることには全国から注目が集まっています。

●活動を継続する2つの秘訣

その成功の秘訣の一つ目は、何といても活動の中身の充実度でしょう。天プラのスタッフは、大学院生や研修者、星のソムリエ（星空案内人）といった星空を楽しむ専門家。毎月の夜空を楽しく眺めるコツだけでなく、子どもたちの知的好奇心をくすぐるちょっとした難しい宇宙の話はもちろん、

と感じる内容でも、子どもたちの理解力、直観力は素晴らしく、星空の見えない日でも、クラブを楽しむに子どもたちは理科室に集まってきました。

二つ目は天プラスタッフ、保護者世話役、コーディネーターの役割分担が明確なこと。前述の通り、活動内容については天プラスタッフにお任せですが、その為の準備は保護者世話役が行います。事前に活動日、活動内容についてのお知らせを配布し、出席の確認を行います。天体望遠鏡を運ぶための当番も、世話役を中心に決められています。当日の出席確認や帰宅時の保護者への引き渡し等、夜の活動ならではの細かな配慮が世話役を中心にきちんとして行われているからこそ、トラブルなく活動が継続しているのだと言えるでしょう。そして、コーディネーターは施設利用について学校との窓口を担っています。週末の夜の学校での活動である以上、先生がたと天プラのスタッフが顔を合わせることはまずありません。そんな互いに顔を知らない二者の間で、責任を持ってコーディネーターが窓口となり、理科室や屋上の使用に関しての調整を行うことで、管理職の先生の異動等があっても活動が途切れることなく続いてきました。もちろん、保護者世話役とコーディネ

ーターとは常に連絡を取り合い、困ったときにはお互いに相談し合うことで、誰か一人に負担が偏ることなく活動に関わることができています。負担が偏らないことこそこれも活動継続の大きなポイントでしょう。

三鷹四小には、「きらめきクラブ」と名付けられたこのようなクラブが約二十種類あり、どのクラブも指導者・世話役・コーディネーターの三者がバランスを取り合って活動しています。どこか一つが欠けても成り立たない活動ですが、コーディネーターはその扇の要として、これからも子どもたちに楽しい活動を提供していきたいと思

●他の学園でも実践中です●

三鷹中央学園以外の他の学園でも、地域人材（三鷹では「人材」と表記します）を学校教育に活用するための取り組みが進んでいます。

- ▽連雀学園「学習支援部」
- ▽にしみたか学園「コーディネート部サポート隊」
- ▽三鷹の森学園「サポート部教育ボランティア」
- ▽鷹南学園「コーディネート部」
- ▽東三鷹学園「支援部サポート隊」
- ▽おおさわ学園「コーディネート部サポート隊」



↑ 屋上での観望会
↓ 理科室での活動も楽しく



望遠鏡や月球儀のクラブ制作、国立天文台関係者を招いての講演会、JAXAの施設見学会など、盛りだくさんの内容が用意されています。大人から見ると少し難しいのでは？

支援リソースの紹介

リソースデータの読み方・使い方



主な活用場面のカテゴリを、漢字1文字で表しています。
あくまでも参考ですので、こだわらなくて良いでしょう。

総 多摩地域の学校支援活動を みんなで盛り上げよう 環



ここでは、団体の活動内容や、支援内容の紹介が書かれます。
団体によっては、ここに書かれた以外の形態で支援を行っている場合もありますので、興味をもたれた場合は、まずは連絡してみることもおすすめです。

写真の説明が入ります

団体名	たまみちゃん（多摩の未来をちゃんと考える会）	
担当	多摩 たまみ	
活動拠点	東京都多摩地域の各所	
連絡先	TEL: 090-****-**** tamami@u-school.jp	
対象者	コーディネーター、PTA関係者など	
対象人数	人数は問わない	必要経費 無料
支援実績	小平市立〇〇中学校、八王子市立〇〇小学校、町田市立〇〇小学校、三鷹市立〇〇中学校 など	
編集部コメント	ここでは、コーディネーターの視点から書かれた、この団体・企画の長所や特徴が書かれます。その他、上記項目だけではわかりにくいことも、この欄に書いていますので、興味ある団体については目を通してみてください。	

交通費・材料費がかかる場合もありますので、チェックをお忘れなく。

支援内容がわかりやすいタイトルがついています。
団体名や授業名ではないこともあるので注意してください。

支援実績は、多摩地域を優先的に記載しています。
書かれていない実績がある場合も考えられますので、あくまでも目安としてご覧ください。

編集部コメントや、団体の紹介文は、支援内容を想像するのに役立ちます。コメントは現役のコーディネーターが書いていますので、ぜひ参考にしてみてください。

●カテゴリの凡例●

総	総合学習 社会科など	環	環境教育 科学など	食	食育・ 農業など	伝	伝統文化 など	道	道德教育 安全教育	表	表現 など
総		環		食		伝		道		表	

①の場合は、特にカテゴリなどを気にせずに、リソースデータを眺め回してください。②の場合は、カテゴリの表示をある程度意識しながら、求めている内容に合致する見出しを探してみてください。
左ページには、リソースの一覧を掲載しました。この一覧表も活用しながら、外部リソースを活用して、豊かな学びがプロデュースされることを願っています。

② 具体的な授業・学習活動を計画している時に、何か役立つ外部リソースが無いか？という視点で探す。

●リソースデータの使い方

このリソースデータは、次のように活用していただくことを前提に作られています。

ここからは、学校支援・教育支援の活動を行っている、様々な団体・企業を紹介します。実際に学校支援活動で活用できるように工夫されていますので、ぜひ活用してみてください。
尚、原則として無料での実施を前提としています。一部には経費を要するものも含まれますのでご注意ください。

◎学校支援リソースデータ 目次◎

頁	タイトル（見出し）	団体名	費用	カテゴリ
16	昔遊び・古布のリサイクルから心の教育まで	八王子お手玉の会	無料	伝・総
	竹とんぼの出前教室をします	どこ竹武蔵野三鷹	交通費のみ	環・伝
	日本古来の伝統文化「囲碁」を通して青少年の健全育成	財団法人日本棋院	無料	伝・道
17	郷土の昔語りを通して、ほのぼのとした心を育む	高尾山とんとんむかし語り部の会	無料※	伝・総
	ジュース専用トマト「凜々子（りりこ）」の苗プレゼント	カゴメ株式会社	無料	食・総
	おいしい授業を“出前”します	明治乳業株式会社	無料	食・総
	しょうゆもの知り博士の出前授業	日本醤油協会	無料	食・総・伝
	クジラの学習から、環境と社会への関心を養う	財団法人日本鯨類研究所	無料	環・食・総
18	「魚には骨がある」一魚を丸ごと知って食べよう	財団法人水産物市場改善協会	無料	食・総
	やさい大好き食育出前事業	特定非営利活動法人青果物健康推進協会	無料	食
	身近なアイスクリームについて学んでみよう！	ハーゲンダッツ ジャパン株式会社	無料	食
	だし・うま味の「味覚教室」	味の素株式会社	無料	食・伝
	サントリー次世代環境教育 水育（みらいく）【出張授業】	サントリーホールディングス株式会社	無料	環・総
19	地上100mに位置するプラネタリウム	ベネッセ・スター・ドーム	無料	環・総
	科学の面白さを工作、実験、実演などで紹介	オリンパスわくわくプロジェクト	無料	環
	「環境とエネルギー学習」プログラム・教材ご案内	東京ガス株式会社 西支社 多摩支店	無料※	環
	総合の授業におすすめ！環境授業、出前します！	ハチドリ教室を伝える会	交通費のみ	環
	水道キャラバンを通して東京水道に対する理解が深まる	東京都水道局	無料	総・環
20	教職員向け環境・エネルギー研修会	東京電力株式会社	無料	環・総
	多摩六都科学館をご活用ください！	多摩六都科学館	要相談	環
	授業支援プログラム～シェア先生の経済教室～	株式会社 東京証券取引所グループ	無料	総
	チェンジリーダーサポートクラブ	NPO法人チェンジリーダーサポートクラブ	交通費のみ	総
	職業調べ学習ウェブサイト「あしたね」	学校ネット株式会社	無料	総
21	産学連携で多彩な授業プログラムを提供	NPO法人企業教育研究会	無料	総・食・道
	一風堂ワークショップ ラーメン餃子出前授業	株式会社力の源カンパニー（ちからのもと）	無料	食・総
	租税教室（出前授業）～税金の大切さを知ろう～	租税教育推進協議会（多摩地域各市町村）	無料	総・道
	発明を通して子どもたちのイマジネーションをのびます	日本GE株式会社	無料	環・総・道
	金融教育の授業・職場体験の受け入れ	株式会社みずほフィナンシャルグループ	無料	総
22	まなぼう教室	野村ホールディングス株式会社	無料	総
	ダンス教材の研究開発及び指導	社団法人日本ストリートダンス教育研究所	無料※	表
	医薬品の正しい使用を啓発・推進しています	くすりの適正使用協議会	無料※	総・道
	美しい日本語の話し方教室	劇団四季	無料	表・総・道
	「盲導犬学校キャラバン」開催！	公益財団法人日本盲導犬協会	交通費のみ	総・道・環
23	学校での国際理解教育を支援します！	JICA地球ひろば（多摩地区デスク）	請求金・交通費	総・環・道
	軽度発達障害児者が地域で自立し安心して暮らすために	安全ネット八王子	交通費のみ	道
	子どもの人権、教育、絵本	絵本作家 森野さかな	要相談	道
	ケータイ安全教室	株式会社NTTドコモ	無料	道・総
	KDDIケータイ教室	KDDI株式会社	無料	道・総
24	情報モラルの教材を無料で配布します	ソフトバンクモバイル	無料	道・総
	情報モラル・リテラシー教育の出前講演会	東京都ファミリールール事務局	無料	道
	小中高校向けキャリア教育プログラム	NPO法人キーパーソン21	有料	総
	食と環境をつなぐオリジナル食農共育プログラム	NPO法人コミュニティスクールまちデザイン	有料	食・環
	誕生学ゲストティーチング	一般社団法人日本誕生学協会	有料	道
25	“安全のコツ”わかりやすくお伝えします！	うさぎママのバトロール教室	請求金・交通費	道・総
	舞台芸術表現を通じた体験型学習の実施	NPO法人PAVLIC（認可申請中）	有料	伝・表
	教育的視点に立ったストリートダンスの提案	日本ストリートダンス教育協会	請求金・交通費	表
	発達障がい理解と啓発を目的とした公演活動	キャラバン隊 にじのかけはし	要相談	総・道

伝 日本古来の伝統文化「囲碁」を通して
青少年の健全育成 **道**



線が少ないわかりやすい碁盤
を使用して囲碁をおぼえます

囲碁は世代・性別を超えて対局を楽しむことができる奥の深い日本古来の伝統文化です。近年では脳の動きを活発にし、前頭前野に良い刺激を与えることから「我慢する感情のコントロール」等にも効果があり、学校での「心の教育」に大変役立つことがわかってきました。日本棋院では学校の体験教室・放課後教室等に囲碁指導の支援を行っています。

団体名	財団法人 日本棋院	
担当	一宮 正人	
活動拠点	多摩市・三鷹市・狛江市など	
連絡先	TEL: 03-3288-8725 FAX: 03-3261-5841	
対象者	幼稚園～中学3年	
対象人数	10名～200名	必要経費 無料
支援実績	多摩市内：永山小・蓮行寺小・多摩第一小・多摩第二小・東落合小・南鶴牧小・	
編集部コメント	体験教室の1時間で全くの初心者でも、小さい碁盤（四路盤、九路盤）での簡単な対局が楽しめるようになります。授業の後、地域人材を巻き込んだ放課後の居場所作りにつなげることなどもできるプログラムです。ウェブサイト http://www.nihonkiin.or.jp/	

伝 昔遊び・古布のリサイクルから
心の教育まで **総**



手作りのお手玉を
作ったことはありますか？

お手玉の作り方と遊びを伝承する中で、礼儀作法を身につけ、だれにでも進んで挨拶が出来るようにします。古布やあまり布から3Rを考えたお手玉作りをし、ものを大切にすることを学びます。さらにお手玉の技法を身につけ（ゆり玉・よせ玉）級認定に挑戦し、達成感や自己実現を回り、伝統遊びへの関心や理解が深まります。

団体名	八王子お手玉の会	
担当	鈴木 幸子	
活動拠点	東京都八王子市	
連絡先	電話・FAX：042-651-7074（18時以降）	
対象者	小学1年～中学3年	
対象人数	20名～60名	必要経費 無料
支援実績	八王子市立愛宕小学校、第五小学校、加住小学校、打越中学校、上柚木中学校、川口中学校、市立児童館各所、他	
編集部コメント	子どもたちのために、始めと終わりの挨拶の大切さ、上履きを脱いだらそろえるなどの生活の基本からお手玉の技術まで、温かく教えてください。子どものレベルに合わせたきめ細かい指導方法をお持ちなので、どの学年でも対応できると思います。	

伝 郷土の昔語りを通して、
ほのぼのとした心を育む **総**



八王子三小の朝語りで、
2年生が「石芋」に聴き入る

故菊地正先生が平成14年に設立され、八王子を中心とする昔話・伝説を伝承する会。八王子の小学校等で、図書館・読書ボランティアの保護者と協力し、地域の昔話を通して自分の町を好きになると同時に、読書への関心を深め豊かな心を培うよう支援しています。他に保育園での支援、マリンバなどとのコラボ活動もあります。

団体名	高尾山とんとんむかし語り部の会	
担当	学校ボランティア担当 中村雅臣	
活動拠点	八王子地区を中心に	
連絡先	TEL: 090-1836-1511 FAX: 042-366-8452 E-mail: miyabiomi@pure.ocn.ne.jp	
対象者	保育園・幼稚園・小学校全学年	
対象人数	特に定めない	必要経費 原則として無料
支援実績	八王子市立山田小学校・第三小学校（以上定期的） 八王子市立第十小学校、第七小学校、東浅川小学校、横山第一小学校、緑が丘小学校（以上不定期）など	
編集部コメント	「とんとんむかし…」と語り始めると、そこはむかし話の世界。地域に伝わる話なので、身近な地名もありなじみやすく、昔から続く時の流れに新鮮な響きがあります。映像や機械ではない生の声の語りかけは、あたたかく感動しました。支援内容としては、国語や朝読書の時間、子ども会などで昔話を語っています。	

環 竹とんぼ教室の出前をします **伝**



三鷹市立第四小学校にて、ど
こ竹リーダーの指導で竹とん
ぼを作る親子

「どこ竹@竹とんぼ教室」のリーダーが小学校や地域のコミュニティセンター、公園等どこにでも伺って竹とんぼ作りと作った竹とんぼでの遊びを指導します。この活動を通じて、①子どもに「考えて作る、つくりながら考える楽しさ、自分で作った竹とんぼを飛ばす楽しさ」を味わってもらうこと、②シニアと子どもが世代を超えて交流することを目指します。

団体名	どこ竹武蔵野三鷹	
担当	安井 豊	
活動拠点	東京都三鷹市	
連絡先	電話：090-2162-6588 E-mail: dokotakemmm@thnetjp.ddo.jp	
対象者	幼稚園年長～小学6年	
対象人数	数人～数百人	必要経費 講師交通費実費
支援実績	三鷹市内各市立小学校、桐朋学園附属小学校、武蔵野市内各小学校 他	
編集部コメント	研修を積んだシニアボランティアがいないに指導して下さいます。竹とんぼの他にも、竹を使った工作指導をしています。	

食 しょうゆもの知り博士の出前授業

伝 総



「しょうゆもの知り博士の出前授業」実施風景

しょうゆのことなら何でも知っている「しょうゆ博士」が、「発酵の不思議」をテーマに、大豆、小麦、塩などの原料からしょうゆが出来るまでの体験学習を行う。熟したしょうゆの香りをかぐ、原料を実際に見る、触る、しょうゆを味見する、といった「五感」に訴える内容と、博士がクイズを出して児童が答える、という双方向コミュニケーションで授業をすすめるのが特長。

団体名	日本醤油協会	
担当	大関 恒雄（出前授業事務局）	
活動拠点	全国220校で実施（平成21年度／関東での活動が約1/3）	
連絡先	TEL: 03-3666-3286 FAX: 03-3667-2216 E-mail: soyic@soysauce.or.jp	
対象者	小学校3～6年生（5年生中心）、要望あれば中学生以上も可。	
対象人数	クラス単位	必要経費 無料
支援実績	小平市立学園東小、町田市立小山田南小、あきる野市立東秋留小、国分寺市立第五小、ほか	
編集部コメント	日本醤油協会が認定した「しょうゆもの知り博士」が講師として派遣されます。 ウェブサイト http://www.soysauce.or.jp	

食 ジュース専用トマト
「凜々子（りりこ）の苗」プレゼント

総



小学校での「凜々子」を使った調理実習（第2学年）

カゴメが10年以上もの年月をかけて自ら開発したジュース専用品種「凜々子（りりこ）」の苗を、毎年春に全国の小学校に無償で提供しています。野菜の栽培体験を通して、子どもたちに「命への関心」と「感謝する心」を育むきっかけとなることを願っています。食の成り立ちを知り、食品産業への理解を深める学習教材として、多くの小学校で活用されています。

団体名	カゴメ株式会社	
担当	カゴメトマトの苗事務局	
活動拠点	全国	
連絡先	0120-047-831（平日9:30-17:00）	
対象者	小学校1～6年生	
対象人数	指定なし	必要経費 無料
支援実績	全国約3800の参加校一覧をウェブサイトで公開中。年6回程度、教員研修（栽培ポイント講座／子どもでも簡単に作れる料理講習会など）を開催。	
編集部コメント	加工用トマト「凜々子」の苗（96本or48本）と教員向け栽培ガイドブック1冊の無償提供。参加校にはFAXやメルマガで管理ポイントなどの最新情報が提供されます。 ウェブサイト http://www.kagome.co.jp/tomato-nae/	

環 クジラの学習から、
環境と社会への関心を養う

総 食



シロナガスクジラ実物大横断幕(24m)で大きさを実感

多様で変化に富んだクジラの生態、地域や時代によって異なる人とクジラの関わりを学ぶことで、生物や環境、社会の多様性への意識を高めます。実物標本や実験による体感を重視した授業を行います。無償提供の鯨肉試食を通して、資源保全と適切な資源利用、環境保全への関心を養います。

団体名	財団法人 日本鯨類研究所	
担当	情報・文化部部長 飯野 靖夫	
活動拠点	東京都中央区（活動地域は全国）	
連絡先	TEL: 03-3536-6535 FAX: 03-3536-6522 E-mail: iino@i-cr.jp	
対象者	小学1年生～中学3年生	
対象人数	特に規定なし	必要経費 無料
支援実績	町田市立南第一小、東久留米市立第一小、国立音楽大学附属小、小平市立小平第六小 など	
編集部コメント	ほとんどが四本足をもつ哺乳類の中で、二本足の人間と海に住むクジラはどちらもちょっと“変わり者”！？日本人とつながりの深いクジラを身近に感じながら、環境、食育、社会科等いろいろな視点から学べます。 ウェブサイト http://www.icrwhale.org	

食 おいしい授業を“出前”します

総



映像やクイズにより楽しく、分かりやすく説明します。

弊社は楽しく学びながらお料理して頂く、小学校・中学校等教育機関への出張を中心とした食育セミナーを実施しております。実施内容はお子様の健康（朝食やカルシウム等）についての座学と乳の不思議を体験して頂く実験をセットにした「食育出前セミナー」と、親子を対象に楽しくお料理を体験していただく「親子クッキング」の2種類です。

団体名	明治乳業株式会社 ※2011年4月1日より株式会社明治 に社名変更	
担当	東京支社お客様相談室：白井 誠	
活動拠点	関東甲信越地区（東京都内での実施が半数以上）	
連絡先	TEL:03-5653-0372 FAX:03-5653-0391 ※2011年4月1日以降、連絡先変更の可能性あり。	
対象者	小学校～中学校の生徒	
対象人数	1クラス（25名）～	必要経費 無料
支援実績	平成22年度、都内では約160回、うち多摩地区では清瀬第四小・小金井市立前原小・小平七小など約20校の実施。	
編集部コメント	子どもたちの成長に欠かせないカルシウムの大切さなどを、わかりやすく教えてください。 ※明治乳業は、2011年4月1日より株式会社明治に社名が変更されます。現在のWEBサイトは http://www.meinyu.jp/ ですが、新連絡先は未定です。 ※親子クッキングについては、乳製品以外の食材費は自己負担となります。	

食

身近なアイスクリームについて
学んでみよう！

色んなアイスクリームを知っ
てもらうための重さ比べ

弊社の社員が直接小学校にお伺いして、温度管理、アイスクリームの種類、パッケージの表示などについて紹介することで、身近なアイスクリームについて楽しく学び、もっとよく知っていただくという「ハーゲンダッツ アイスクリームスクール」を実施しています。

団体名	ハーゲンダッツ ジャパン株式会社	
担当	総務人事部 溝部 政司・澤村 優子	
活動拠点	東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県	
連絡先	TEL: 03-5722-5900 FAX: 03-5722-5909	
対象者	小学1～6年生	
対象人数	最大50名/回	必要経費 無料
支援実績	小金井市立緑小、昭島市立共成小、八王子市立第二小、三鷹市立高山小など、1都3県で170件以上	
編集部コメント	誰もが知っているアイスクリームを通して、いろいろなアイスクリームがあることや、温度管理の大切さを学べる「アイスクリーム出前授業」です。また、中高生を対象にした企業訪問の受け入れも行っていきます。 ウェブサイト http://www.haagen-dazs.co.jp	

食

「魚には骨がある」
～魚をまるごと知って食べよう～

総



食べる時に邪魔な骨はどこか
な？

魚には骨がある、この当たり前のことが子どもの魚嫌いの最大の理由です。骨は魚だけでなく、私たち人間をはじめ、動物には欠くことのできないものです。本授業では魚の骨の仕組みを人間の体との比較を交えながら教え、魚の骨に興味を持たせ、どこに骨があるのか理解したうえで、魚を上手に、美味しく食べる方法を学びます。

団体名	財団法人 水産物市場改善協会	
担当	築地食育プラン担当 大森 良美	
活動拠点	築地市場近隣地区（中央区、江東区中心）	
連絡先	TEL: 03-3547-8824 FAX: 03-3545-4415 E-mail: info@osakana-center.com	
対象者	小学5～6年生（3年生～中学生は応相談）	
対象人数	クラス単位	必要経費 無料
支援実績	国分寺市立国分寺第七小、小平市立第六小、小平市立第四小 など(小平市立第八小、国分寺市立国分寺第七小では保護者対象の教室も実施)	
編集部コメント	2時間続けて（または給食時間を含む）の授業では、最後に真鱈の塩焼きを一人一尾ずつ食べることで実践につなげていきます（鱈も無料提供です）。タイトル通り、身近な魚の魅力を「まるごと」再発見できるプログラムです。 ウェブサイト http://www.osakana-center.com	

食

だし・うま味の「味覚教室」

伝



かつお節削り体験の様子

味の素株式会社の社員が学校に伺い、「だし・うま味」を生かした和食のすばらしさや「おいしく食べることの意義」を伝えます。「だし・うま味」をより理解するためのだし素材に触れる体験や、かつお節削り体験、料理における「うま味・だし」の価値を実感していただくための味噌湯体験などを行います。

団体名	味の素株式会社	
担当	味覚教室事務局	
活動拠点	全国	
連絡先	TEL: 03-5250-5200 FAX: 03-5250-8314 WEB: http://www.mikakukyouhitsu.ajinomoto.jp/	
対象者	小学1～6年生	
対象人数	クラス単位	必要経費 無料
支援実績	2010年度は約160校で実施（予定） WEBサイトに実施レポートを掲載しています	
編集部コメント	日頃食べている料理の美味しさの秘密は、「うま味」や「だし」にあることを、実験を通して学ぶことができます。そのことを意識して家庭科の授業や、家庭でのお手伝いに取り組むことができます。	

食

やさしい大好き食育出前授業



今年度実施した小学校の食育
出前授業にて

「地元の野菜を知って、野菜博士になろう」をテーマに出前授業を行う。地元野菜について知り、旬の考え方を理解した上で、健康の為に食べる野菜料理の量を理解する。野菜博士5ヶ条を理解する事で、児童一人ひとりが野菜摂取の意欲を高める活動を行う。家庭学習意欲を高める為、宿題を提出した児童に「野菜博士認定証」を授与する

団体名	特定非営利活動法人 青果物健康推進協会	
担当	青果物健康推進協会 事務局 藤田	
活動拠点	全国	
連絡先	TEL: 03-3770-3701 FAX: 03-3770-3729 E-mail: info@vf7.jp	
対象者	小学5～6年生	
対象人数	各学級単位	必要経費 無料
支援実績	全国のべ105校252回の実施（平成21年度）	
編集部コメント	実施地域に合わせ、地元でとれる野菜をテーマに授業を展開。授業後、家庭で宿題に取り組むことで家庭と連携した食育を目指します。宿題を提出できた児童に交付される名刺大の「野菜博士認定証」もやる気につながります。 ウェブサイト http://www.vf7.jp	

環

科学の面白さを
工作・実験・実演などで紹介



光を使ったマジック授業
「光イリュージョン」

地域の子どもたちに、科学の面白さ、特にオリンパスの得意分野である「光」の動きや不思議などを紹介するイベントを開催しています。「子どもたちに科学の面白さを伝えたい」という願いのもと、2003年4月にわくわくプロジェクトという社員のボランティアサークルが発足し、そのサークルが中心となって、出前授業「わくわく科学教室」などを運営しています。

団体名	オリンパスわくわくプロジェクト	
担当	樋田 博文	
活動拠点	八王子市の小中学校を中心として	
連絡先	TEL: 042-691-7116 FAX: 042-691-7573 E-mail: h_tsuchida@ot.olympus.co.jp	
対象者	小学1年～高校3年	
対象人数	特に定めなし	必要経費 無料
支援実績	八王子市立第一中・第二小・第三小・第六中・宇津木台小・みなみ野中・松木中・横山第一小・七国中など多数 科学技術館応用物理学会75周年イベント	
編集部コメント	手品のように不思議な科学の世界にワクワク！また、内視鏡などに活かされている先端技術に触れ、技術の進歩が生活に結びつくことを実感できます。子どもたちに科学の面白さを伝えようと、休日返上で動いているスタッフの姿にも感動！	

環

「環境とエネルギー学習」
プログラム・教材



マイナス162度の不思議な世界

東京ガスでは、子どもたちが楽しみながら「環境問題」や「資源・エネルギー問題」について学べるプログラム・教材をご用意しています。未来を担う子どもたちが、エネルギーを身近なものと感じ、環境問題やエネルギー問題を解決するために自分には何ができるかを考えるきっかけづくりになれば幸いです。

団体名	東京ガス株式会社 西支社 多摩支店・西部支店	
担当	多摩支店 鈴木謙二課長 / 西部支店 山中秀夫課長	
活動拠点	多摩支店：小平・小金井・府中・稲城・東村山・国立・多摩・八王子・日野・立川・国分寺・東大和 西部支店：武蔵野・三鷹・調布・狛江・東久留米・西東京	
連絡先	多摩支店：042-526-6125 西部支店：03-3396-2192	
対象者	小学4年生～中学3年生	
対象人数	15～40名	必要経費 無料
支援実績	上記活動拠点の公立小・中学校。特に小平市内の多くの小学校での支援実績があります。	
編集部コメント	新しい発電方法の燃料電池について学んだり、窒素ガスを使っている実験など地球温暖化防止に向けて分かりやすく学ぶことができます。エコッキングは、日ごろ残った食材が身近なメニューに変身し美味しいので、とても人気があります。	

環

サントリー次世代環境教育
水育（みずいく）「出張授業」

総



“水育”出張授業
「水を育てる森のはたらき」
(5,6年向け)

ゲームや実験を通じて、また企業の実際の活動をDVDで紹介しながら、身近な水に興味を持ち、水を守ることの大切さを学ぶ体験型学習プログラムです。「わたしたちのくらしと水」（4年生学習レベル）、「水を育てる森のはたらき」（5,6年生学習レベル）、「地球温暖化が引き起こす水問題」（発展学習レベル）の3つのプログラム（いずれも90分）を小学校に伺って実施しています。

団体名	サントリーホールディングス株式会社	
担当	サントリービジネスエキスパート株式会社 お客様リレーション本部 次世代環境教育「水育」推進グループ	
活動拠点	東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、山梨県、他多数	
連絡先	03-5532-0621（水育事務局「出張授業」係）	
対象者	小学校4～6年生	
対象人数	25～80名/回	必要経費 無料
支援実績	多摩市立大松台小学校 など	
編集部コメント	生命の維持に欠かせない「水」をより身近に感じながら、サントリーの水育は「森と水の学校」と「出張授業」の中で、実験やゲームを通して「水」について分かりやすく考えることができます。 ウェブサイト http://suntory.jp/MIZU-KU/	

環

地上100mに位置する
プラネタリウム

総



ドームスクリーン全面に映し出される映像により楽しく分かりやすく説明します。

多摩センター駅徒歩5分ほどの場所にあるプラネタリウムです。ドームには、プラネタリウムで映し出す星空のほか、幅広くサイエンスを取り上げた映像作品があります。また、地上100mの展望フロアからは、多摩丘陵の地形、多摩ニュータウンの全容を360度見渡すことができ、社会科見学にも利用できます。

団体名	ベネッセ・スター・ドーム	
担当	ベネッセ・スター・ドーム	
活動拠点	多摩市（ベネッセコーポレーション東京本部ビル21階）	
連絡先	TEL: 042-356-0814	
対象者	主に小学3～4年生	
対象人数	座席数65席	必要経費 無料
支援実績	年間100校以上の利用あり	
編集部コメント	幼稚園児から小学生まで、幅広い年齢層にあわせたプログラムがあり、対応していただけます。星座の勉強には、実際に見上げて、動きまわわかるプラネタリウムはピッタリですね。	

環 教職員向け
環境・エネルギー研修会 **総**



👉 専門ガイドによる尾瀬解説の様子

教職員の方々へ、エネルギーについての知識・情報をご提供するため教育研修会を開催しています。(実施内容：応相談)
研修例：環境・エネルギー情勢、太陽光発電やスマートグリッドの解説／「電気の利用」「放射線」に関する実験工作の解説／模擬授業／原子力発電所等の施設見学会／専門ガイドによる尾瀬等の自然解説、等

団体名	東京電力株式会社	
担当	東京電力(株) 多摩支店 営業企画グループ 久芳(くば)	
活動拠点	多摩地域全域	
連絡先	TEL: 042-641-6315	
対象者	教職員	
対象人数	応相談	必要経費 無料(校内の場合)
支援実績	教職員向け研修会の平成21年度開催実績は11回・240人(その他模擬授業の開催実績：56回)	
編集部コメント	小学生向けに野菜を中心としたレシピ集「パクパクレシピ」を作成し冊子で配布したり、中学校教員向け副教材として「中学校家庭科調理実習レシピ」(CD)を作成するなど、食に関する情報提供を行っています。 ※必要経費に関して、施設見学会などを行う場合には、貸切バス代・保険料・有料道路料金等は会社が負担して下さるそうです。 http://www.tepco.co.jp/eco/communication/education/index-j.html	

環 総合の授業におすすめ！
環境授業、出前します！ **食 総**



👉 高島屋「びっくり!エコ100選」に選出され出張教室開催

南アメリカの民話「ハチドリの一とすく」を気づきのきっかけとして、大人でも子どもでも誰もがちょっとした「行動＝ひとすく」で地球を冷ます暮らし方ができる！ということをお母さんたちと町田市環境資源部が力を合わせて楽しく子どもたちに伝えていきます。後半のゴミの分別ゲームは毎回盛り上がります。

団体名	ハチドリ教室を伝える会	
担当	黒津 一子	
活動拠点	東京都町田市(その他の地域からの依頼は調整します)	
連絡先	042-797-0530 (町田市環境資源部ごみ減量課) E-mail: hachidori-party@hotmail.co.jp (ハチドリ教室を伝える会)	
対象者	小学4年～中学生	
対象人数	クラス単位	必要経費 講師交通費実費
支援実績	町田市：小山ヶ丘小ほか13校、町田ごみフェスタ 町田市外：女子大2校、びっくり!エコ100選(新宿高島屋)など	
編集部コメント	小山ヶ丘小の保護者が中心となって発足した会です。町田市以外でも、行政担当部署と協働で実施できればと考えているそうです。 ウェブサイト http://hachidorikyoujitsu.web.fc2.com	

環 多摩六都科学館をご活用ください！



👉 多摩六都科学館 外観

科学への興味・関心を育むことを目的として、解説付き学習シートによる展示室利用や、学習指導要領に沿ったプラネタリウム学習番組(小学4年生、中学生対象)を始め、授業にすぐに役立つ理科実験を中心とする教員セミナー、多摩川の小石貸出しセットなど、授業に活かすための教育支援プログラムを行っています。

団体名	多摩六都科学館	
担当	多摩六都科学館組合 管理運営課 事業サポート係	
活動拠点	東京都西東京市	
連絡先	TEL: 042-469-6100 FAX: 042-469-4152 E-mail: zigyo@tamarokuto.or.jp	
対象者	幼児～大人	
対象人数	要相談	必要経費 要相談
支援実績	多摩六都圏域(小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市)の幼稚園・保育園等及び小学校・中学校を始め、練馬区、武蔵野市、三鷹市などの都内近隣市や埼玉県南部(所沢市・新座市等)からも多く学習利用されている。	
編集部コメント	楽しみながら科学を学べる、体験型の施設です。プログラムによって、費用・定員に違いがありますので、詳しくはお問い合わせ下さい。 ウェブサイト http://www.tamarokuto.or.jp	

総 水道キャラバンを通して
東京水道に対する理解が深まる **環**



👉 映像を取り入れた分かりやすい説明

蛇口をひねると出てくる水道水。蛇口から直接水を飲むというのは日本が誇る水道文化です。蛇口まで水道水をお届けするために、東京都水道局では水源林の管理、高度浄水処理など、様々な取り組みを行っています。これら東京水道に関する取り組みについて、水道キャラバンが小学校を訪問し寸劇・映像・実験を用いて分かりやすく説明します。

団体名	東京都水道局	
担当	サービス推進部広報サービス課お客さまサービス担当係長 清水英徳	
活動拠点	武蔵野市、昭島市、羽村市を除く 都営水道が給水されている区域に設置されている小学校	
連絡先	TEL: 03-5320-6326	
対象者	小学5～6年生	
対象人数	3名～198名	必要経費 無料
支援実績	西東京市立芝久保小学校、稲城市立城山小学校、東大和市立第六小学校、福生市立福生第三小学校、あきる野市立小宮小学校 ほか	
編集部コメント	私たちがあたりまえに飲める「水」について、子どもたちがより深く学習できるよう、わかりやすく映像化されています。 ウェブサイト http://www.waterworks.metro.tokyo.jp	

総

職業調べ学習ウェブサイト 「あしたね」



キャリア教育（職業調べ学習）の無料教材です。ウェブサイト上に200人以上の職業インタビュー記事などを掲載しており、利用ガイドとワークシートに沿って児童生徒自身で調べ学習を進めることができます。お申込み頂くと、「ウェブサイト利用ガイド」、「授業用ワークシート」、「指導ガイド」、を無料で送付致します。

200以上の職業や職業人を紹介しています

団体名	学校ネット株式会社	
担当	渋谷 太郎	
活動拠点	東京都	
連絡先	TEL:03-6276-5715 E-mail: info@gakko-net.co.jp	
対象者	小学校5年生以上	
対象人数	制限はありません	必要経費 無料
支援実績	ウェブサイト「あしたね」を利用している学校は全国1700学校（2010年11月末時点）。多摩地域でもほとんどの自治体において、利用中の学校が多数ございます。	
編集部コメント	学校にパソコンルーム等の環境があれば、すぐに取り組みます。様々な職業人のインタビューが載っており、リアルな情報です。また、一人ひとりの関心にあわせて調べ学習をすすめることができるのも特徴でしょう。 ウェブサイト http://www.ashitane.net	

総

授業支援プログラム ～シェア先生の経済教室～



授業の様子

「経済や金融」というと難しいと思う児童・生徒の皆さんが多いと思いますが、私たちの暮らしに密接にかかわっています。私たちの暮らしと経済のかかわりや、株式会社のしくみなどロールプレイで、分かりやすく楽しく学びます。クラス単位、学年単位の授業、PTA主催の親子イベントなどでご利用ください。

団体名	株式会社 東京証券取引所グループ	
担当	CSR推進部 東証アカデミー事務局 町田貴子	
活動拠点	日本全国の小・中・高校	
連絡先	TEL: 03-3665-4879 E-mail: school@tse.or.jp	
対象者	小学校5～6年生、中学生、高校生	
対象人数	10名～	必要経費 無料
支援実績	稲城市・西東京市・青梅市・八王子市・小平市・昭島市・日野市などの小中学校多数 内容：東証施設見学（社会科見学）・受入授業 / 東証の担当者による出張授業	
編集部コメント	経済や金融というと分かりにくいイメージがありますが、講師の方がロールプレイやクイズ方式で一方通行な内容にならないよう工夫して伝えてくださるので、特に中3の社会科（流通・経済）にはお奨めです。 ウェブサイト http://www.tse.or.jp	

総

産学連携で 多彩な授業プログラムを提供

食 道



全国に講師を派遣しています

千葉大学、静岡大学の教育学部の学生が中心となり、企業やアーティスト、NPO等と協働して、出前授業や教材を無料で提供。読売新聞の記者がインタビューの方法や記事の書き方などを指導する「教育ルネサンスことばの授業」の他にも、食育、情報モラル、キャリア教育など様々なテーマの授業プログラムを提供しています。

団体名	特定非営利活動法人 企業教育研究会	
担当	事務局長 市野敬介	
活動拠点	千葉県ほか全国	
連絡先	TEL: 043-308-7229 E-mail: info@ace-npo.org	
対象者	小・中・高校生	
対象人数	クラス～学年単位	必要経費 無料
支援実績	小平市立小平第九小学校、小平市立小平第一小学校、他	
編集部コメント	学習指導要領や教科書の内容を関連づけられたプログラムを豊富に持っているNPO法人です。「ホンモノ」を教材として活用し、双方向の参加型の授業の進行を大事にしています。 ウェブサイト http://ace-npo.org/	

総

チェンジリーダーサポートクラブ



小平第二中学校での授業写真

営利最優先主義の起業ではなく、様々な社会の問題点を解決し、持続可能な社会の実現を目指した起業家＝『社会起業家』の活躍が期待されています。私たちは、社会起業家を目指す大人を支援すると共に、子どもたちにも『社会起業家』について普及・啓発活動を行い、あるべき経済人の姿を考え、リーダーシップを学ぶ機会を創出したいと考えます。

団体名	NPO法人チェンジリーダーサポートクラブ	
担当	青木 寛	
活動拠点	東京都内	
連絡先	TEL: 090-1664-2468 E-mail: yutaka.sw@jcom.home.ne.jp	
対象者	小学校高学年、中学生、高校生	
対象人数	制限はありません	必要経費 無料（交通費実費）
支援実績	小平市立小平第二中学校、西東京市立田無第四中学校、東村山市立第六中学校	
編集部コメント	小・中・高校・大学等で普及活動を行っています。中学校で行った「貿易ゲーム」は、世界の経済状況を理解することができ、必見です。 ※「貿易ゲーム」等で使う文房具類は、学校側でご用意ください。 ウェブサイト http://www.changeleader.jp	

環

「発明」を通して子どもたちの
イメージーションをのばす

道 総



日本GE (株)

テクノロジー、メディア、金融サービスを世界各地で展開する企業GEには創始者の一人として発明家トーマス・エジソンがいました。このゆかりを生かした『地域に役立つ発明家になろう！プロジェクト』は、子どもたちと一緒に地域の課題を見つけ、子どもたちが主体となって解決策を考え、発表できるよう社員がサポートします。

団体名	日本GE (株)	
担当	GE Volunteers (GE ボランティア)	
活動拠点	北海道/関東/関西/九州	
連絡先	電話：03-3588-9500 FAX：03-3582-0996 E-mail：comm.corporatejapan@ge.com	
対象者	小学校高学年	
対象人数	クラス単位	必要経費 無料
支援実績	2010年度は19校で実施、2003年からの累計で延べ113校で実施。 *障害に関係なく実施しております。	
編集部コメント	地域発見・課題プログラム「ウォーキング・マップ」づくりを通し、子どもの目線だけでなく、様々な立場の大人の視点を共有することによってお互いの気づきが再発見できます。 ウェブサイト http://www.ge.com/jp/	

食

一風堂 workshop
(ラーメン餃子出前授業)

総



多摩地域にラーメン餃子出前授業「一風堂 workshop」がやってくる！「孤食化」が進み、食本来の大切さを感じにくくなっている現在、正しい食のあり方をみつめ、食を通じたコミュニケーションの重要性を伝える一風堂オリジナルの《食活動》です。食に携わる企業としてラーメン・餃子作りを通して「やることの喜び・料理の楽しさ・食の大切さや感謝」を伝えます。

団体名	株式会社 力の源カンパニー (ちからのもと)	
担当	HRD室 岩下 真由子	
活動拠点	福岡、大阪、東京	
連絡先	電話：092-762-4445	
対象者	小学5～6年生	
対象人数	100名以下	必要経費 無料
支援実績	多摩地域では、小平第六小学校。他70校	
編集部コメント	体育館のドアを開けると別世界。あ不思議！！ラーメン横丁の世界が広がります。子どもたちが生き生きと食育だけでなく職業にかける熱い心と生き方を身近に感じる総合的な体験です。実施にあたっては管理職の大いなる決断が必要です。「今後は関東でも積極的に活動し、社会貢献・地域貢献に動いていきたい」と、熱く語っていらっしゃいました。 ウェブサイト http://www.chikaranomoto.com/	

総

金融教育の授業・
職場体験の受け入れ



みずほ銀行の支店での職場体験受け入れ風景

東京学芸大学との共同研究に基づき、以下の取り組みを実施。1.社員を派遣し、金融教育の授業をしています。社会科、家庭科、道徳、総合学習など、様々な教科・領域での授業実績があります。2.全国の本支店で職場体験の受け入れを行っています。業務内容を説明した後、営業現場の見学と業務の体験をしていただきます。

団体名	株式会社みずほフィナンシャルグループ	
担当	CSR推進室 成瀬・宿利 (しゅくり)	
活動拠点	多摩地区全域を含め、全国	
連絡先	電話：03-5224-2164 FAX：03-5224-1055 E-mail:takafumi.shukuri@mizuhofg.co.jp	
対象者	小学校高学年～高校生、特別支援学校	
対象人数	応相談	必要経費 無料
支援実績	小平二中、西東京市ひばりが丘中、東大和五中、清瀬中、東久留米大門中、多摩市青陵中、三鷹市三鷹中、狛江一中、調布五中の近隣の支店で職場体験を受け入れ	
編集部コメント	小学校、中学校、高校、特別支援学校など、学年に合った金融教育のプログラムを提供されています。職場体験での受け入れも快く相談に乗ってくださるので、助かっています。 共同研究ウェブサイト： http://www.mizuho-fg.co.jp/u-gakugei/index.html	

総

租税教室 (出前授業)
～税金の大切さを知ろう～

道



じゃんけんで税金クイズをしています (講師に勝った人が正解)

税金について、単なる知識だけを教えるのではなく、『税金とは何か？』『なぜ税金が必要か？』を考えてもらうことを目的としています。1億円の模擬紙幣での重さ体験やビデオ視聴をしたり、またクイズも取り入れながら、楽しくわかりやすい授業を目指しています。
なお、講師は税務署員のほか、関係団体 (税理士会・法人会) の方も行っています。

団体名	租税教育推進協議会 (多摩地域各市町村)	
担当	立川税務署 税務広報広聴官 江成・入江	
活動拠点	多摩地区全域	
連絡先	立川税務署 TEL: 042-523-1181 (内513・514) FAX: 042-524-7927	
対象者	小学6年生、中学3年生	
対象人数	クラス単位 (学年合同も可)	必要経費 無料
支援実績	〔平成21年度開催実績〕 小学校：122校 中学校：21校	
編集部コメント	硬いテーマですが、身近な例をたくさん使ったわかりやすい内容です。土曜日の学校公開等にも対応していただけます。「ぜひ、保護者も一緒に授業を聞いて家庭で話題にして欲しい」との担当の方のお話でした。	

総

教材無料貸出、くすりの出前研修

道



マグネパネル「薬の運ばれ方」、「薬の血中濃度」

くすりの適正使用協議会は23年前に設立され、患者さんに役立つ医薬品の適正使用に関する情報提供と啓発を主目的とし、国内の製薬企業22社と個人会員2名からなる公益性を有する非営利団体です。近年は、児童・生徒への啓発を目指し、全国を対象に教師向け出前研修や無償教材貸出などの支援活動に注力しています。

団体名	くすりの適正使用協議会
担当	事務局(啓発担当) 米澤晴子
活動拠点	全国(教師向け出前研修・教材無料貸出)
連絡先	TEL: 03-3663-8891
対象者	くすり教育に関わる指導者
対象人数	出前研修は10名以上 必要経費 交通費・資料実費
支援実績	出前授業: 年間20回(八王子市教育委員会・稲教研学校保健部会・立川市学校保健会養護教諭部会、羽村市保健部会) 教材無料貸出: 全国で年60~70件
編集部コメント	写真の教材は平成24年度からの中学校新学習指導要領「保健分野」における、医薬品の主作用・副作用・使用回数・使用时间・使用量などを理解させる教材としてお勧めです。その他、大型カプセル・錠剤模型も無料貸出可能。貸出教材の申し込みの際、アンケートに協力するとくすりの絵文字ピクトグラムの下書きがもらえるようです。ウェブサイト http://www.rad-are.or.jp

総

まなぼう教室



実際の授業風景です。

まなぼう教室は「為替」をテーマに学ぶプログラムです。子供たちはサイコロをしようした輸出入体験ゲームを通じて、為替変動のもたらす影響や円高・円安など難しい金融・経済の知識を楽しみながら学習していきます。

団体名	野村ホールディングス株式会社
担当	コーポレート・シディズンシップ推進室 杉山翔
活動拠点	全国各地
連絡先	TEL: 03-3276-5315
対象者	小学校高学年
対象人数	10名~100名 必要経費 無料
支援実績	2008年8月からこれまでに44回開催。
編集部コメント	小・中学生から大学生、社会人に至る幅広い世代への教育・啓発活動に力を入れています。未来を担う子どもたちに向け、金融・経済に関する正しい知識の教育プログラム提供をしています。小学生向け「街のけいざい教室」と、中学生向け「街のTシャツ屋さん」があります。ウェブサイト http://www.nomura.co.jp

表

美しい日本語の話し方教室

総 道



劇団四季の俳優による授業風景

劇団四季の俳優が小学校の教室を訪れ、劇団四季の50年を超える歴史の中で培われてきた独自の「方法論」母音法を通して、美しい日本語の話し方について分かりやすく教えます。授業の後半ではミュージカルのテーマ曲を使って、歌詞を正しく伝える方法とともに、「思いやり」や「友情」の大切さについて考えます。

団体名	劇団四季
担当	東京公演本部「美しい日本語の話し方教室」係
活動拠点	東京都全域
連絡先	TEL: 03-5776-6730
対象者	小学校5、6年生
対象人数	1授業40名程度 必要経費 無料
支援実績	のべ1,678校(2010年12月現在)
編集部コメント	子どもたちは楽しみながら、日本語の発音を考え、相手にきちんと伝える事について学びます。また、「歌」を通して心についても見つめることのできる、とても素敵な授業です。ウェブサイト http://www.shiki.gr.jp

表

ダンス教材の研究開発及び指導



ヒップホップ・ダンス講習会終了後のスナップ

教職員を対象にした体育でのダンス教育支援組織。授業に役立つヒップホップ・ダンス教材(DVD、音源、指導要領、読本のセット)を開発中、今春に発表します。2010年8月、八王子市のパワーアップ研修で中学校教員へのヒップホップ・ダンス講習会を実施。ダンスの成り立ちの解説と実施指導を行いました。

団体名	社団法人 日本ストリートダンス教育研究所
担当	代表理事 江守 鶴
活動拠点	東京都、神奈川県、千葉県
連絡先	TEL: 03-5716-8035 E-mail: sonor3@gol.com
対象者	小・中・高の教職員と体育大学生
対象人数	2名以上 必要経費 無料
支援実績	八王子市由井中学校/市内36校の教員が参加
編集部コメント	教員用の講習会です。生徒にダンスを指導するポイントを学びます。また、生徒としての模擬授業体験をインストラクターから受けることができます。教材は新指導要領にあったものを作成中です。ウェブサイト http://www.jsdei.com

道 軽度・発達障害児者が
地域で自立して安心して暮らすために

総



👉 疑似体験教室（ロールプレイング方式）・交通事故通報

軽度・発達障害など困り感をもつ人たちは危険察知能力が不足しており、犯罪や事故などトラブルに巻き込まれ易い現状があります。それらを回避するためには、親・学校・地域の協力が必要です。具体的には、①関わる人や地域の人たちの障害理解講座。②本人向けにソーシャルスキルなどの獲得目的で学習会や余暇活動を実施。

団体名	安全ネット八王子	
担当	木村靖子	
活動拠点	八王子市	
連絡先	TEL: 090-9370-0175 E-mail: mike_nyann_nyann@ybb.ne.jp	
対象者	小・中・高校生、成人	
対象人数	特に制限なし	必要経費 実費・交通費
支援実績	＜疑似体験学習講座＞八王子市立第三中学校、あきる野学園青年学級、港区役所青年学級、座間育成会、多摩連絡協議会、心身障害福祉センター、八王子市デイサービス事業所、ほか	
編集部コメント	発達障がい児・者の理解のために講座ワークショップを行っています。プログラムは話し合っ決めていき、現実に即した内容になっています。本人の為に活動も幅広く展開しています。	

道 「盲導犬学校キャラバン」開催！

総



👉 盲導犬ユーザー・盲導犬を身近に感じてもらいます

視覚障がいと盲導犬のことをより深く理解してもらうために学校訪問活動「盲導犬学校キャラバン」を開催しています。盲導犬と生活をしている視覚障がいの方と盲導犬を伴い、小・中学校を訪問します。盲導犬ユーザーを身近に感じ、盲導犬とふれあい理解を深めてもらいたいと思います。

団体名	公益財団法人 日本盲導犬協会	
担当	普及推進事業部 山田美香	
活動拠点	横浜市	
連絡先	神奈川訓練センター 電話：045-590-1595	
対象者	小学校4年生～	
対象人数	30名～150名程度	必要経費 講師交通費実費
支援実績	多摩市立東あたご小学校・北豊ヶ丘小学校、その他東京・神奈川・千葉・埼玉地区にて年間30校程度	
編集部コメント	「盲導犬学校キャラバン」と称し、未来を担う子どもたちに、盲導犬や視覚障がいについての知識を深めてもらえるよう、盲導犬とともに学校へ出向きデモンストレーションを行っています。お仕事中は声をかけてはいけい盲導犬とふれあえる、またとない機会です。 ウェブサイト http://www.moudouken.net	

道 こどもの人権、教育、絵本



👉 講演の様子です

こどもの人権、教育、絵本権利や教育、また絵本について、自分の体験をふまえながら講演。ちょっとした日常の出来事からヒントを得て、それが絵本の題材になります。自身の絵本朗読と演奏会を実施。「こどもの権利を買わないで」は日本図書館協会の推薦図書、日本ユネスコ協会連盟推薦「200年平和の文化国際年」記念出版作品となりました。

団体名	絵本作家 森野さかな	
担当		
活動拠点	関東近郊	
連絡先		
対象者	小中高校、大学、保護者	
対象人数		必要経費 要相談
支援実績	多摩地域を含む関東近郊での学校、教育委員会、人権啓発セミナー、男女共同参画などで朗読会や講演	
編集部コメント	さかなさんの朗読会・講演は、子ども達にいつでも何度でももう一度チャレンジ出来るということを伝えてくれます。傷ついた心に励ましのメッセージをくれます。終わった後には、聞いた人が温かい気持ちになります。	

総 学校での国際理解教育を支援します！ **環** **道**



👉 国際協力出前講座で、青年海外協力隊OBの話をお聴く中学生

JICA地球ひろばは、学校現場での国際理解教育を支援しています。JICA地球ひろばへの訪問受け入れ、国際協力出前講座、国際協力エッセイコンテスト（中高生）、国際理解教育のための教材・資料の提供、教員向けセミナーなど、世界を学ぶ授業づくりを支援する多彩なメニューを用意しています。

団体名	JICA地球ひろば（多摩地区デスク）	
担当	JICA多摩地区デスク 依田武則（よだ たけのり）	
活動拠点	多摩地区全域（八王子・武蔵野等の活動頻度が高い）	
連絡先	TEL: 042-620-7437 FAX: 042-626-0253 E-mail: jicadpd-desk-hachiojishi@jica.go.jp	
対象者	小学1年生～高校3年生、教員、保護者など	
対象人数	1名～全クラス合同	必要経費 謝金と交通費実費
支援実績	国際協力出前講座：八王子市・昭島市・町田市・小金井市・府中市・あきる野市の小中学校、武蔵野市教育委員会など 教員向けセミナー：八王子市教育委員会との連携事業	
編集部コメント	国際協力出前講座では、国際協力についてはもちろんのこと、命・人権・道徳・環境・食育・スポーツ・音楽・進路など、テーマや状況に合わせて柔軟に相談に乗って内容を組み立てることができます。講師陣（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア経験者等）から、現地での実体験に基づいた話を聴くことができます。 ウェブサイト http://www.jica.go.jp/hiroba	

道 情報モラルの教材を無料で配布します

総



👉 教員や地域の保護者を対象に研修会も行っています

NPO法人企業教育研究会と連携して情報モラルをテーマにした教材（DVD映像付き指導案冊子）を無料配布。『考えよう、ケータイ』は、児童・生徒を対象にした授業で、『みんなで考えよう、ケータイ』は家庭教育学級や保護者会、PTA研修会など、保護者や地域の大人を対象にした研修会でご活用いただけます。

団体名	ソフトバンクモバイル株式会社		
担当	事務局長 市野敬介		
活動拠点	千葉県ほか全国		
連絡先	TEL: 043-308-7229 E-mail: info@ace-npo.org		
対象者	小・中・高校生		
対象人数	クラス～学年単位	必要経費	無料
支援実績	小平市立小平第九小学校、小平市立小平第一小学校、他		
編集部コメント	学習指導要領や教科書の内容を関連づけられたプログラムを豊富に持っているNPO法人です。「ホンモノ」を教材として活用し、双方向の参加型の授業の進行を大事にしています。 ウェブサイト http://ace-npo.org/		

道 ケータイ安全教室

～安心・安全な社会の実現に向けて～

総



👉 ケータイ安全教室 授業風景

携帯電話の普及に伴い、ネットコミュニケーションのトラブル、個人情報漏洩等、未成年者の携帯電話の使用に関し、様々な問題が起きています。NTTドコモでは、ご要望を頂いた学校に無料で講師を派遣し、携帯電話を使用する上でのマナーやルール、トラブルへの対処法を啓発する活動を実施しています。

団体名	株式会社NTTドコモ		
担当	NTTドコモ「ケータイ安全教室」事務局		
活動拠点	全国		
連絡先	TEL: 0120-707-360 FAX: 0120-555-360		
対象者	小学生～高校生、特別支援学校、保護者、教員		
対象人数	制限はありません	必要経費	無料
支援実績	多摩地区全域の小学生～高校生、特別支援学校、保護者、教員の方々へ多数実施（2009年度は全国5,473回開催）		
編集部コメント	小学校高学年の児童が中学生になり携帯電話を持つ前に聞くことをお勧めします。また、その保護者にもお勧めです。テキスト、DVDなどの教材がとても充実しています。 ウェブサイト http://www.nttdocomo.co.jp/k-tai-anzen/		

道 情報モラル・リテラシー教育の出前講演会



👉 クイズやDVD教材を活用して分かりやすくお話しします

ネット・ケータイの賢い使い方を学ぶ出前講演会を実施しています。講演では、ネットの仕組み、ネットいじめや詐欺等のトラブル事例、ネット・ケータイを利用する時のルールやマナー、フィルタリングや家庭でのルール作りの大切さについて学びます。

団体名	東京都ファミリールール事務局		
担当	山本・大野・岡崎		
活動拠点	東京都内全域		
連絡先	TEL: 0120-910-870 (9:00-17:00/土日祝日を除く) FAX: 0120-910-480 E-mail: info@e-rule.jp		
対象者	小学校1年～中学3年		
対象人数	数名～全校生徒程度	必要経費	無料
支援実績	八王子市（ひよどり山中、他7校）、三鷹市（四小、他2校）、町田市（藤の台小、他2校）		
編集部コメント	小・中学校の保護者を対象とした講座もあります。グループワークを中心とした講座ですが、後半ではインターネット・携帯電話・ゲームの現状とトラブル対処方法について学ぶこともできます。 ウェブサイト http://www.e-rule.jp		

道 「KDDIケータイ教室」～ケータイのルールとマナーを学ぶ出張教室～

総



👉 ケータイ教室風景

1)安心・安全講座：携帯電話やインターネットによるトラブル事例を紹介し、より安全に安心して利用するための必要なルール・マナー・トラブル時の対処方法などを学びます。
2)防犯・防災講座：子どもたちを取り巻く犯罪事例、起こりうる災害の仕組みや被害についての知識を深め、「もしも」のときに携帯電話を有効に利用し、対処できる方法を体験的に学ぶ教室です。

団体名	KDD株式会社		
担当	KDDIケータイ教室事務局		
活動拠点	全国		
連絡先	TEL: 03-6411-5796 FAX: 03-6411-5797 E-mail: info@gakko-net.co.jp		
対象者	小学校5、6年、中・高校生		
対象人数	1クラス～全校生徒	必要経費	無料
支援実績	小平市立第一中学校、小平市立第十三小学校、稲城市、三鷹市、東大和市、立川市、多摩市などの小・中学校で実施。		
編集部コメント	豊富な事例をもとに、具体的なトラブル時の対処方法を教えてください。小学校、中学校と発達にあわせて、ルールやマナーも何のために必要なのか根拠を明確に学べるテキストはお勧めです。 ウェブサイト http://www.kddi.com/school		

食 食と環境をつなぐ
オリジナル食農共育プログラム



手作り材料を使用し、
楽しく学べる講演型授業

バーチャルウォーター・フードマイレージをキーワードに、食と地球環境問題をつなげ、地球にやさしい食のために、食料の自給力を高め、地産地消を広げる方策を考えます。消費者としての食品を選ぶ目を養うため、食品添加物や遺伝子組み換え食品などを題材に、食品表示の見方はもちろん、日本の食の構造への理解を深めます。

団体名	NPO法人 コミュニティスクール・まちデザイン	
担当	理事長 近藤恵津子、副理事長 松村裕子	
活動拠点	八王子市、日野市、世田谷区、江戸川区など	
連絡先	TEL: 03-5426-5212 FAX: 03-3426-9911 E-mail: cs.machi-design@nifty.com	
対象者	小学5年～中学3年（講演型なら小学3年から可）	
対象人数	30～500名	必要経費 学校予算により応相談
支援実績	八王子市（愛宕小他8校）、東村山市（一中他2校）、小平市（二中）、町田市（南成瀬中）、日野市（二中）、狛江市、西東京市、東久留米市、他	
編集部コメント	講演型授業以外にもCSデザインの方と保護者、地域メンバーがチームを作り、事前にプログラムの内容説明と講義を受け、一緒に授業を運営する形式もあります。クラス単位、学年授業、学校授業で対応します。 ウェブサイト http://homepage3.nifty.com/machi-design/	

○有料の支援団体の紹介○



「まなびアンテナ」では、原則として無料の支援団体、ないし学校の乏しい予算で対応可能な経費・謝金等のみで実施できる団体だけを紹介する方針を取っています。

しかし、有料でプログラムを提供する支援団体の中にも、コーディネートとしては是非紹介したいと思う、有意義な内容のプログラムが少なくありません。このコーナーでは、そのようなプログラムを紹介しています。

現在、学校支援活動の多くは、ボランティアの善意や、企業等の社会貢献

活動に依存しています。これは、学校が教育活動に自由に使える予算が乏しく、ほぼ無料で取り組めるプログラムしか活用できないという事情からと考えられます。

しかし、質の高い教育を提供するためには、ここに紹介する団体のように、有料で（＝仕事として）学校支援や教育活動に取り組む団体の活躍も必要だと思います。学校や教育に十分な予算が配分され、費用をかけて良い教育プログラムを活用することができると、そんな時代の到来を願います。

道 誕生学ゲストティーチング



小学校での誕生学ゲストティーチングの様子

誕生学プログラムは、小さかったいのちの始まりの気づきから普遍的な妊娠中の成長のプログラムを説明し、分娩経過を赤ちゃんの動きを主体に説明することで、誕生のドラマを生命力と喜びをベースに伝えます。また、今いる自分の成長には愛情が不可欠であったことを伝え、自尊感情を高める出張事業を届けています。

団体名	公益社団法人 誕生学協会	
担当	誕生学協会認定講師会員	
活動拠点	全国	
連絡先	TEL: 03-5454-8210 FAX: 03-5454-8430 E-mail: info@tanjo.org	
対象者	全学年	
対象人数	1クラス（約40名）	必要経費 有料
支援実績	2010年度 計62校（武蔵野市、狛江市、杉並区、豊島区、目黒区、世田谷区 など）、他全国	
編集部コメント	「生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」をスローガンとしたわかりやすい内容です。今の時代に必要な自尊感情を高めるプログラムになっています。 *45分一コマの講師料：15,000円（応相談） ウェブサイト http://tanjo.org/	

総 小中高校向けキャリア教育プログラム



大人といきいきコミュニケーションをかわす子どもたち

小・中・高校生世代を対象としたキャリア教育プログラム「夢発見プログラム」を開発、実践しているNPO法人です。企業、行政、保護者、学校、地域のあらゆる諸団体と連携し、子どもたちが自分の将来の仕事や生き方について考える機会を提供しています。2001年設立され全国で展開中です。

団体名	特定非営利活動団体キーパーソン21	
担当	事務局広報担当 林 章子	
活動拠点	川崎市を中心に首都圏全域、青森など全国に展開中	
連絡先	TEL: 044-431-0420 E-mail: hayashi@keyperspn21.org	
対象者	小・中・高校生、大学生以上の大人、保護者	
対象人数	クラスor学年単位	必要経費 有料
支援実績	小平市立小平第二中学校、狛江市立狛江第三中学校、あきる野市立東中学校、川崎市の小中学校、東京学芸大学付属世田谷小学校、他にて、キャリア教育プログラム実施。	
編集部コメント	多様な職業の大人たちが学校に来られて子ども達とコミュニケーションを交わす姿は圧巻です。いつもと違う授業に子どもたちの表情も驚くほど生き生きとしていました。「すきなものピンゴ&お仕事マップ」「コミュニケーションゲーム」「かっこいい大人ニュース」など。 *プロジェクトに参加する講師の交通費・通信費がかかります。	

表

教育的視点に立った
ストリートダンスの提案



「ダンスをやりたい」「ダンスに興味がある」など子ども達のニーズも高く、H24年度から学校教育で必修となるダンス。一方で、学校現場では必修化にあたってたくさんの課題があります。そこで、私たちは今まで研究してきたカリキュラムをもとに、授業や部活動の学習内容を先生方と考え、子ども達にとってより質の高いダンス学習を目指します。カリキュラム作成や授業をお手伝いします。

団体名	日本ストリートダンス教育協会		
担当	日本ストリートダンス教育協会 問い合わせ係		
活動拠点	東京都内		
連絡先	info@jsdea.org		
対象者	小学校～高等学校の教員、部活動顧問		
対象人数	クラス・部活動単位	必要経費	要相談
支援実績	H22年度 港区御成門中学校、都立高校部活動 他		
編集部コメント	東京学芸大学とカリキュラム開発をし、ただいま学校現場で実践研究を行っているところです。教育に特化した活動内容なので、特に学校関係者におすすめです。		

道

「安全のコツ」を
わかりやすくお伝えします！

総



「キラキラあんぜんキーホルダー工作」作品例

体験型の安全教室をはじめ、交通安全のための反射材をつかったキラキラ工作まで、安全について楽しく分かりやすいプログラムをご提供いたします。また、演出家たちとともに開発・実施している安全ワークショップ『あんぜんパワーアップセミナー』（第4回キッズデザイン賞優秀賞受賞）も好評開催中です！

団体名	うさぎママのパトロール教室		
担当	教室主催者/安全インストラクター 武田信彦		
活動拠点	都内各地から全国まで		
連絡先	TEL: 03-5996-4696 FAX: 03-5996-0873 E-mail: info@usagimama.com		
対象者	児童・生徒全般		
対象人数	20名～100名ほど	必要経費	予算に応じて対応
支援実績	小平市立第十三小学校、小平市立上宿小学校、西東京市立保谷小学校、ほか		
編集部コメント	子ども向けのセミナー教室から、保護者向けの講演まで幅広い活動をしています。保護者パトロールの壁にぶつかった時、沢山のヒントを頂きました。 ウェブサイト http://www.usagimama.com		

道

発達障がい理解と
啓発を目的とした公演活動



軍手をはめ教科書をめくることで出来ない子の気持ちを体験

見た目には分かりにくい様々な感覚の違いを持った発達障がいの子もたち。”どんな特徴があるのかな？””どんな事で困っているのかな？”など、発達障がいのあるなではなく、”困っていること”として皆で共有し、誰もが過ごしやすい環境づくりの「きっかけ」「かけはし」となればと思活動しています。
公演プログラム：紙芝居・疑似体験・詩の朗読

団体名	キャラバン隊 にじのかけはし		
担当	永井 千津子		
活動拠点	八王子市		
連絡先	TEL: 090-5328-7720 E-mail: nijikake2008@na3.fiberbit.net		
対象者	全学年		
対象人数	90名まで	必要経費	要相談
支援実績	多摩市教育委員会特別支援教育説明会、明星大学、八王子市立下柚木小学校、他		
編集部コメント	発達にさまざまな子もたちの特性を、紙芝居や疑似体験を通してわかりやすく知る事ができます。他者理解・自己理解につながるプログラムになっています。		

伝

舞台芸術表現を通じた
体験型学習の実施

表



子育てパパのあんぜんワークショップ風景

全国の子供たちや地域に暮らす人々、そして様々な企業に対して、「演劇ワークショップ」を中心とする芸術表現を通じた体験型学習の提案と実践を行い、家族間・地域間・組織間・世代間でのコミュニケーションに必要な能力を促すことで、コミュニティ作りに寄与したいと考えています。

団体名	特定非営利活動法人PAVLIC（認定申請中）		
担当	田野邦彦		
活動拠点	目黒区ほか東京都内		
連絡先	TEL/FAX: 0422-49-9121 E-mail: tanokuni@za3.so-net.ne.jp		
対象者	小学校～高校・特別支援学校		
対象人数	制限はありません	必要経費	有料
支援実績	小平市立小平第十三小学校、西東京市立保谷小学校、西東京市北原児童館、西東京市他文化共生センター、他全国各地		
編集部コメント	2011年2月に誕生した団体です。コミュニケーションを大事にする視点で参加者が楽しいと思えるワークショップを展開します。自分を表現することに不安を抱いている人も、このワークショップに参加することで、自信が持てるようになるでしょう。		

◎行政窓口一覧表◎

※多摩地区の自治体 50音順

自治体名	担当窓口・部署	電話番号・連絡先	主な担当業務等
昭島市	生涯学習部 社会教育課	042-544-5111 (内) 2259	
あきるの市	教育委員会 教育部 生涯学習推進課 生涯学習係	042-558-1111 (内) 3012 FAX: 042-558-1560	学校支援ボランティア・放課後子ども教室
稲城市	教育委員会 指導室	042-3700-2111 shidoushitsu@city.inagi.lg.jp	
青梅市	教育委員会 教育部総務課指導室	042-22-1111 (内) 2376	学校単位でNPO・ボランティア等の導入は行っています
奥多摩町	教育委員会 教育課	0428-83-2246 (直) kyoiku@town.okutama.tokyo.jp	
清瀬市	教育委員会 指導課	042-492-5111 FAX: 042-495-3940	
国立市	教育委員会 生涯学習課 社会教育・体育担当	042-572-1193 sec-shogaigakushu@city.kunitachi.tokyo.jp	
小金井市	生涯学習部 生涯学習課	042-387-9879 k020199@koganei-shi.jp	
国分寺市	教育部 学校指導課 教育部 社会教育・スポーツ振興課	042-573-4374 042-574-4044	学校ボランティア 放課後子ども教室
小平市	教育委員会 教育部 生涯学習推進課	042-346-9834 FAX: 042-346-9578 syogai-gakusyu@city.kodaira.lg.jp	学校支援ボランティア・放課後子ども教室
狛江市	教育委員会 教育部指導室	03-3430-1111 (内) 2330,2331 FAX: 03-3430-1600	学生ボランティア等を学校に紹介
立川市	教育委員会 指導課 指導係 教育委員会 指導課 指導主事	042-528-6872 shougai-suishin@city.tachikawa.lg.jp	
多摩市	教育委員会 教育振興課	042-338-6925 FAX:042-337-7620	学生ボランティア紹介等の学校活動の支援
調布市	教育委員会 教育センター 教育支援コーディネーター室	042-481-7718 (内) 7720	市民ボランティア (市民・学生) を学校に紹介しています。
西東京市	教育委員会 教育部 教育指導課	042-438-4075	
八王子市	教育委員会 指導室 教育支援人材バンク担当	042-664-1193 b300700@city.hachioji.tokyo.jp	市民ボランティアを学校に紹介しています
羽村市	教育委員会 教育部指導室 指導係	042-555-1111 (内) 376	学校単位でNPO・ボランティア等の導入は行っています
東久留米市	教育委員会 指導室	TEL 042-470-7777(内3132)	学校教育にかかわる教育行政全般
東村山市	教育委員会 教育部 社会教育課	042-393-5111 shakaikyoku@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp	
東大和市	教育委員会 指導室 指導係 東大和市教育センター教育情報室	042-563-2111 (内) 1534 042-567-0346	行政の担当 学校ボランティアの窓口
日野市	教育委員会 文化スポーツ課 子ども部子育て課	042-585-1111 (内) 5331 042-585-1111 (内) 2518	学校支援地域本部 放課後子どもプラン「ひのっち」
日の出町	教育委員会 学校教育課 指導・学務係	042-597-0511 gakkou_k@town.hinode.tokyo.jp	
檜原村	教育委員会 教育課 学校教育係	042-598-1011 gakkoukyou@vill.hinohara.tokyo.jp	
府中市	児童青少年課	042-335-4427	放課後子ども教室
福生市	教育委員会事務局 生涯学習推進課	042-551-1958	放課後子ども教室、 学校支援地域本部

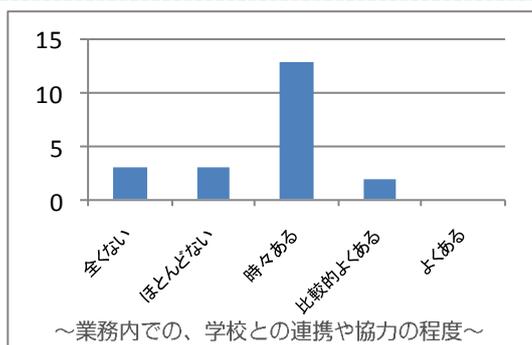
自治体名	担当窓口・部署	電話番号・連絡先	主な担当業務等
町田市	学校支援センター	042-722-3111 (内) 3608 center@city-machida-gakkoshien.org	学校支援ボランティアの総合窓口
瑞穂町	教育部 学校指導課 指導係	042-557-6694 (直) FAX: 042-557-2693	
三鷹市	教育委員会 指導課	0422-45-1151 (内) 3254	
武蔵野市	教育委員会 指導課	0422-60-1898	
武蔵村山市	教育部 生涯学習スポーツ課	042-565-1111 (内) 656	放課後子ども教室

●社会教育施設と学校の連携

「公民館へのアンケート結果報告 @ 小平市」

今回、制作チームでは、社会教育施設（公民館等）と学校の連携の可能性を考えるために、小平市教育委員会の協力を得て、21名の公民館事務職員の方々へのアンケート調査を行いました。

公民館利用者の年代層に関する質問では、「60代以上」が大半であり、普段は中高年層向けの業務を中心に行なっていることが推測されます。また「業務内での学校との連携や協力」についての質問には、左のグラフのように「時々ある」の回答が多く、



社会教育施設と学校との連携はまだ発展途上にあることがうかがえます。

しかし、一人ひとりの職員が学校との連携に対するモチベーションは決して低くはなく、「公民館は常に大人の利用者がおり、安全な居場所であるとともに、世代間交流や、別の学校の子とも連との交流も期待できる」「社会活動をしているサークルが数多く公民館には存在するので、講師として、お手伝い（ボランティア）として、子どもと関わる事ができ、連携できる可能性があると思う。」など、学校や子どもたちとの連携に期待する記述も多く見受けられました。

本誌で紹介した企業・団体等以外にも、様々な社会教育施設と連携・活用することによって、子どもたちが世代を超えて大人と様々な体験を共有することが出来ます。そしてそこには、きつと豊かな学びが生まれると考えています。

●子育て多摩手箱 ～ 乳幼児と小中学生の交流

「子育て多摩手箱」は、多摩地域の子育て支援活動を行っている団体のネットワーク。2008年東京自治会館で多摩子育てフォーラムが開催され、その時に出会った団体、個人の方々の有志で、「多摩」というくくりでネットワークし、子育て環境の向上に繋がればという

目的で設立されました。2ヶ月に1度集まり、情報交換をしています。

各団体は、その地域で個性豊かな子育て支援活動を展開していますが、登録団体のひとつである清瀬市のピッコロでは、小学4年生以上を対象に「ジュニアサポーター養成講座」を行ない、子育てひろば等で乳幼児とのふれあい事業を行ったり、中学校や高校でも子育てひろばを開催しています。その他の団体も、

小学生の野外キャンプを実施したり、世代間交流などにも積極的に取り組んでいます。

※お問い合わせは、佐野東村山子育て支援ネットワーク（すみ）まで。

☎042・395・2506



→ 参加NPO団体他、個人10名	東村山子育て支援ネットワークすみ (東村山市)	042-395-2506
	子育てネットワーク・ピッコロ (清瀬市)	090-8304-1076
	エンジェル・ハートケア (小平市・杉並区)	03-6383-5880
	保育サービスひまわりママ (武蔵野市)	0422-32-3322
	市民サポートセンター日野 (日野市)	042-583-1528
	国立子育てチエラ (国立市)	042-575-7564
	子育てコンビニ (三鷹市)	0422-41-7021
	自然育児友の会 (国分寺市)	042-326-2208
	シーズネットワーク (多摩市)	042-338-7487
	日野子育てパートナーの会 (日野市)	042-587-6276

● まなびアンテナ 第1号への応援メッセージ ●



■伊藤 正史「厚生労働相
キャリア形成支援室長」

キャリア教育に関わる研修等のご縁で、一言寄せさせていただきました。キャリア教育は、学校だけでなく、地域社会の子育て、学び、人材育成に関わるすべての機関、人々の共通課題。具体的資源をどのように開拓し、組み立て、教育の場、学び手に結びつけていくか、具体の取組み問われていると思います。こうした観点から、労働行政としても、指導人材養成等役割大と認識、この度の「多摩発」の情報発信の成果、大いに期待し注目しております！

■高柳 雄一「多摩六都科学館館長」

東京学芸大学と共催の「夏季教員セミナー」、企業連携による教職員向け「エネルギー教育研修会」、「多摩川の川原の小石貸し出しセット」提供による理科学習支援プログラムなど、多摩六都科学館では、地域の教育力強化支援の機会を多彩に用意しています。学校のニーズと理科学習支援リソースの絆を生み出す「まなびア

ンテナ」の活躍に期待しています。

■長島 剛「多摩信用金庫
価値創造事業部長」

多摩地域では住民、事業者、NPO、大学、自治体など様々な立場の方々が得意分野を活かして地域課題を継続的に解決する「しくみづくり」が盛んに行われるようになってきています。未来を創っていく子どもたちを地域全体で育てていくためのネットワークづくりも重要な課題です。様々なネットワークが多摩地域の学校支援のネットワークにも有効に活かされるよう地域の一員として賛金庫も応援しております。

■中村 昌克「経済産業政策
局産業人材政策室」

かつて「生きること・働くこと」に対する意識は、地域社会の中で自然と育まれてきていました。しかし、「コミュニティの崩壊が進む現代において、自己と社会とのつながりを子供たちに伝える最後の砦として学校で意識的に経験させていくべき」という考え方が広がってきました。「コーディネート」は、地域社会が担っていた役割が形を変えたものです。地域で一体となった次世代育成の取り組みが更に発展することを期待いたします。

■松田 恵示「文部科学省
生涯学習調査官・東京学芸大
教授」

「子ども」という言葉は、私たちの未来を象徴する言葉です。子どもに関わるということは、未来に関わり、未来を育てていくような営みでもあるのだと思います。近年、学校教育への地域からの支援、参画が活発になってきています。このような活動がさらに促進されるためには、情報の共有と交流がひとつのポイントとなります。未来を育てる活動に、多くの力が集められるために、この情報誌が広く活用されることを心より願っております。

■三村 隆男「早稲田大学
教授」

学校は地域の人材を育てるところです。その学校を地域が支援することで驚くべきことが起きます。それは支援された子どもたちが大人となり支援する側に回る道筋ができたからです。支援されたことのある人がする支援はさらに良いものとなって次の子ども達に提供されていくのです。「まなびアンテナ」が学校と地域がさらに強くつながるきっかけとなり、人材育成のよい循環を創出することを期待します。

● 地域教育推進ネットワーク 東京都協議会 ●

「地域教育推進ネットワーク 東京都協議会」は、学校と企業・大学・NPO等のネットワークをつくり、子供たちに豊かな、多様な体験学習活動が提供できるようにサポートし、活性化していくしくみづくりをめざしています。

特に学校支援活動については「教育支援コーディネーター部会」が中心となって、地域の「コーディネーター」の方々が地域を越えて交流し、他地域のさまざまな取組事例に触れる機会として、年6回程度「教育支援コーディネーター・ミーティング」を開催しています。ま

た、コーディネーター相互の交流に加えて、コーディネーターが積極的に教育支援活動に取組む企業・NPOと交流する機会、「コーディネーターフォーラム」を年に1回開催しています。

コーディネーターにとって、良い学びや出会うの機会になるので、ぜひ活用してみてください。開催日程・場所など詳しいことは、協議会のホームページ（下記のURL）をご覧ください。

<http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/schooling.html>

【連絡先】東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課

電話03-5320-6853 E-mail: mlc-net@section.metro.tokyo.jp



● 学校と地域で育てる地域の子ども ●

～ユネスコスクールセミナーの紹介～



地域にある環境や社会的な課題をテーマとした体験的、課題解決的な学習は、不足している子どもの実体験や人や社会との関係性を補完するものとして、子どもたちの他者理解力や問題解決力の向上や、不登校やいじめの改善に

も期待されています。そのような学習は学校だけでは進めることができません。学校と地域が一体になって取り組むことで、子どもたちの「未来を創造する力」を育むことができます。

そのような学習は国際的に

編集後記

▼岡田 栄(町田市)
都・コーディネーターミーティングにて、地元以外の学校支援の諸活動について学び、本誌編集に関わる(混ぜてもらおう)ことで、さらにその学びは深まりました。本誌発行きっかけに「リ・スター」!

▼小野田 信子(小平市)
皆様とご一緒出来る時間はほんのわずかでしたが、関わることが出来て嬉しく思います。本誌に込められた熱い思いが多くの人々に伝わる事を願っています。有難うございました。

▼小山田 佳代(学芸大)
今回、まなびアンテナの作成に参加させて頂いたとき、コーディネーターさんたちのあふれるパワーと、子どもたちへの熱い思いにふられて、私自身学ぶことが多くありました。編集会議のテイタムのおいしいお菓子と楽しいおしゃべりも最高でした!皆様、どうもありがとうございました。

▼貴家 由美子(八王子市)
取材・記事作成・原稿チェックなど初めての事ばかりでしたが、とても勉強になりました。この経験をコーディネーターの仕事に生かしていきたいです。

▼小室 裕美(八王子市)
取材や編集作業を通じて、各方面で活躍している方々と出会い、様々な学びがありました。今後の活力源になります。まなびアンテナ拡大中!

▼高橋 良枝(小平市)
参加して頂いた団体に初めて電



▲編集会議にて@三鷹市
校正作業中のひとコマ▼



表紙の絵を黒板に書いています@小平第二中

話したときはドキドキしましたが、無事に終えてホッとしていました。この情報誌にほんの少しですがお手伝いできて嬉しく思いました。

▼布 昭子(小平市)
子どもたちへそして多摩の未来への想いを形にする一歩になりました。出来ることなら喜んで、さまざまなた方の優しさと勇氣、責任ある大人の熱い心意気に支えられました。感動と感謝でいっぱいの日々でした。ありがとうございました。

▼花岡理奈(小平市)
様々な学びを柔軟に吸収する「アンテナ」を持って欲しい、全ての経験は未来に通じる、という想いを誌名と表紙に込めました。小・中学生の人生の糧を作る一助ができれば幸いです。

▼馬場 麻子(小平市)
アンテナ発信のお手伝いに関わり、すっかり衰えていた仕事感が徐々に戻り!楽しかったし勉強になりました。そしてアンテナを通し新しい出会いに感謝!

▼平林 慶史(USEC)
日頃は学校支援の現場から遠い

所で仕事をする事が多く、これだけ多くのコーディネーターの方々と関わる経験は初めてでした。皆さんのパワーとバイタリティーがあつてこの学校支援なのだと思から実感しました。

▼毛利 弘美(小平市)
この企画に参加させて頂き、なかなか返信が来なくあせってしまつたこともありましたが、微力ながらお手伝いできて良かったです。また、他市の方たちと交流が出来た事が何より楽しかったです。

▼森本 かおり(三鷹市)
皆で推敲・編集の作業をしながら、今の、そしてこれから学校教育について熱く語り合う会議の場がとて新鮮でした。

新しい出会い、新しい経験をさせていただいた「チームたまみちゃん」の皆さまに感謝!

▼四柳 千夏子(三鷹市)
途中参加でしたが、みなさんのこれまでの実績、熱い思い、苦悩?、そして何よりもすごい忙しさに触れ、自分の「やる気スィッチ」を押しなおした、濃密な2か月でした。

まなびアンテナ 2011

発行者 多摩の未来をちゃんと考える会(「たまみちゃん」)

発行責任者 布 昭子(小平第二中学校コーディネーター)

執筆・編集 小野田信子・高橋良枝・布昭子・馬場麻子・花岡理奈・毛利弘美(小平市)、小山田佳代(学芸大)、貴家由美子・小室裕美(八王子市)、岡田栄(町田市)、森本かおり・四柳千夏子(三鷹市)、平林慶史(USEC)

表紙の絵 菅原美優さん・玉川咲紀さん(小平二中2年)

イラスト 増田秀子さん(三鷹四小・四中の保護者)

連絡先 NPO法人u-School推進コンソーシアム
東京都新宿区高田馬場2-14-2 新陽ビル7階
TEL/FAX: 03-5155-7578
E-mail: tamami@u-school.jp

※この冊子は、NPO法人u-School推進コンソーシアム(USEC)が受託した、平成22年度文部科学事業「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」の一環として作成されました。

は持続発展教育、すなわちESD (Education for Sustainable Development) と呼ばれています。H22年度ESD-Jは東京都教育庁の地域教育支援部と連携し、地域にある人と資源をいかしたESDについて学びあう「ユネスコスクールセミナー」を開催してきました。セミナーには、地域コーディネーターや学校支援本部担当者、その地域の保護者などが集まり、学校と地域がどのように協力すれば「地域に根ざした学習」がで



板橋で開催したユネスコスクールセミナーの様子

★ESD-Jのホームページ★
<http://www.esd-j.org>

きるかを話し合っています。今後ESD-Jは「地域に根ざした学習」の推進に向け、さまざまな学びあいの場を提供します。詳しくはESD-Jのホームページをご覧ください。

「事務局長 佐々木雅二」



まなびアンテナ

東京都多摩地域の小・中学校のための
学校に社会の力を活用するための便利帖

<http://www.manabi-antenna.org>
「まなびアンテナ」WEB版 近日オープン

「まなびアンテナ」の今後の活動に向けて サポーターを募集！！

多摩地域の子どもたちのよりよい学びのために、今後も「まなびアンテナ」を通して次世代育成の現場に活用できる情報を届けていきたいと考えています。次号作成に向けて、取材・編集作業でご協力いただける方、掲載を希望される団体・企業の方々、ご支援・ご協力をいただける方などからのご連絡をお待ちしております。以下まで、お気軽にご連絡ください。

NPO法人USEC内「まなびアンテナ」事務局 tamami@u-school.jp / 03-5155-7578